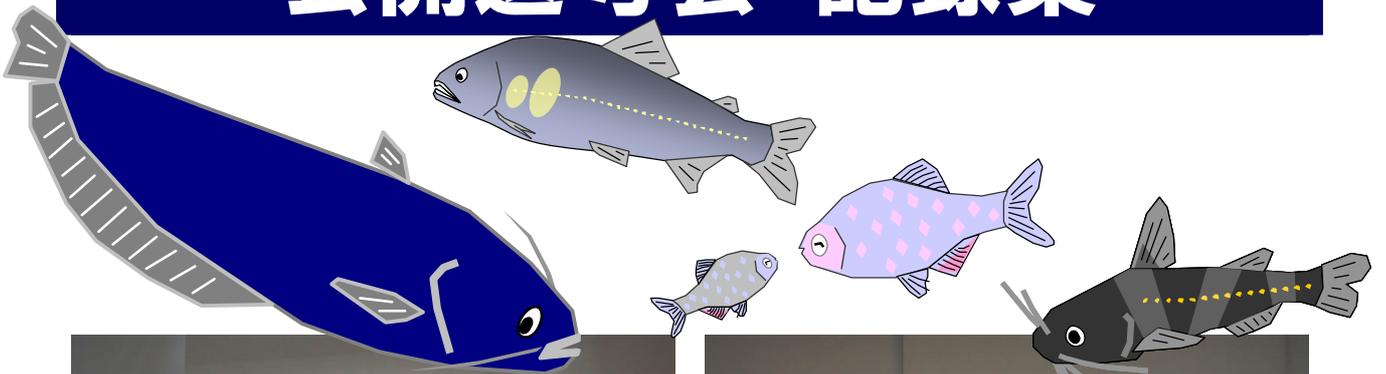




第6回 淡海の川づくりフォーラム

平成25年(2013年)1月14日(月・祝)開催

公開選考会 記録集

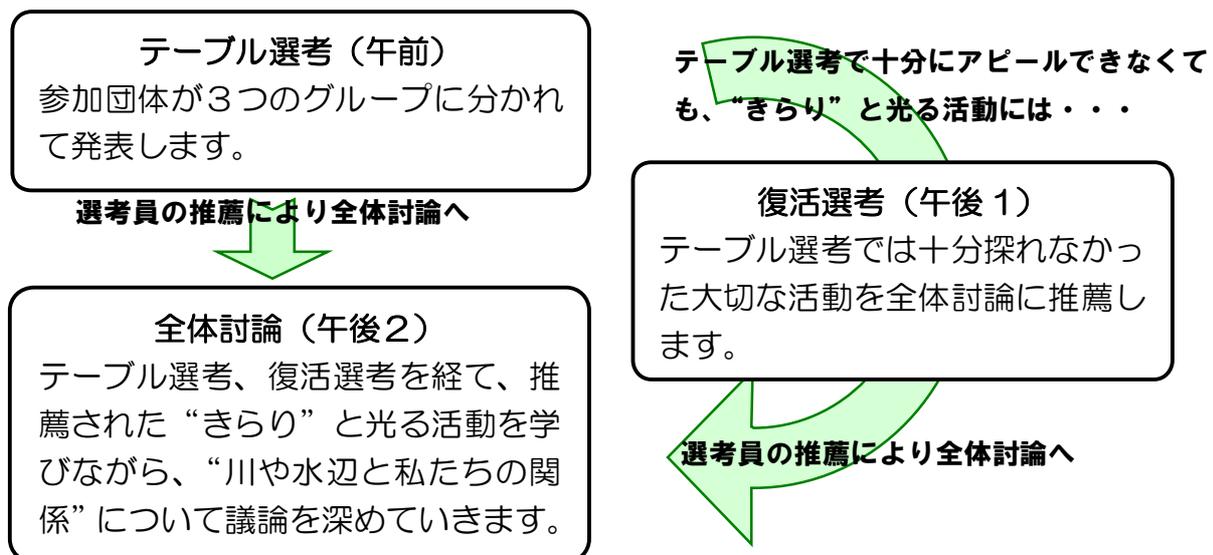


淡海の川づくりフォーラム実行委員会

1. 淡海の川づくりフォーラムとは

第6回淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- ★ 日時 平成 25 年(2013 年) 1 月 14 日 (月・祝) 9:30~16:30
- ★ 場所 コラボしが 21 3階各会議室
- ★ 内容 テーブル選考、復活選考、全体討論



本事業はマザーレイク 21 計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。

2. 公開選考会の開催概要

プログラム

● 1月14日（月・祝）会場：コラボしが21

9：30～10：00 開会、ガイダンス
大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。

10：00～11：30 テーブル選考発表
選考員が中心となって議論を深め、全体討論に進む“きらり”と光る活動をテーブルごとに2団体、選びます。
テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。

11：30～11：45 テーブル選考の結果発表
各テーブルから推薦された6団体を発表します。

（お昼休憩）

12：45～13：15 復活選考
時間内で自由に選考員に活動内容をアピールします。
復活選考から全体討論に進めるのは3団体程度です。

13：15～13：30 スペシャルセッション
平成24年 いい川・いい川づくりワークショップ（東京開催）発表報告
【白鳥川の景観を良くする会】 吉田栄治さん
ー第5回淡海の川づくりフォーラム グランプリ受賞団体ー

13：30～16：15 全体討論
発表時間5分で選考員に活動内容をアピールします。
全団体発表後、選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。

16：15～
結果発表・表彰
全体討論の結果を発表します。
グランプリ・準グランプリの表彰式が行われます。
河港協会賞とマザーレイクフォーラム賞は全参加団体の中から選ばれます。

選考結果

グランプリ

- アイキッズ ～エコアイデアキッズびわ湖～

★★★「子供の目が命のつながりをみつけたで賞」

準グランプリ

- 勝部自治会

★★ 「水への親しみと地域の魅力、守り続けるのは地域力で賞」

- 徳山環境保全会

★★ 「男 11 人、川に親しむ地域の芽を出したで賞」

河港協会賞

- 愛知川塾
- 山内エコクラブ
- 竜王清流会

マザーレイクフォーラム賞

- 巨木と水源の郷をまもる会
- 琵琶湖河川レンジャー有志
- 公益財団法人 京都地域創造基金（母なる川・保津川基金）

3) 応募団体一覧

(敬称略)

	団体・グループ名	代表者
テーブルA		
A-1	勝部自治会	藤本律男
A-2	愛知川塾	村山邦博
A-3	山内エコクラブ	竜王みやび
A-4	滋賀県湖東土木事務所	北川洋平
A-5	琵琶湖河川レンジャー有志	池本裕子
テーブルB		
B-1	NPO法人瀬田川リパブレ隊	富岡親憲
B-2	琵琶湖博物館 環境学習センター	桑原雅之
B-3	東近江市立能登川南小学校	佐伯健次
B-4	公益財団法人 京都地域創造基金 (母なる川・保津川基金)	深尾昌峰
B-5	いきものみつけファーム滋賀推進協議会	森 繁樹
テーブルC		
C-1	巨木と水源の郷をまもる会	青木 繁
C-2	竜王清流会	長江とみ江
C-3	アイキッズ ～エコアイディアキッズびわ湖～	増淵貞夫
C-4	徳山環境保全会	田中武志
C-5	おにぐるみの学校	小林圭介
計	【参加 15 団体】 / 発表 15 団体	

選考結果一覧

テーブルA

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
A-1	たちばな川を含む 9 河川とその支流 等	勝部自治会	推薦		準グランプリ
A-2	愛知川	愛知川塾	推薦		河港協会賞
A-3	野洲川	山内エコクラブ		復活	河港協会賞
A-4	犬上川	滋賀県湖東土木事務所			
A-5	琵琶湖とその周辺河川	琵琶湖河川レンジャー有志			マザーレイク フォーラム賞

テーブルB

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
B-1	高橋川および瀬田川	NPO法人瀬田川リバプレ隊			
B-2	県内全域	琵琶湖博物館 環境学習センター			
B-3	山路川	東近江市立能登川南小学校	推薦		
B-4	保津川・上桂川・大堰川	公益財団法人 京都地域創造基金 (母なる川・保津川基金)	推薦		マザーレイク フォーラム賞
B-5	県内河川や水路	いきものみっけファーム滋賀推進協 議会			

テーブルC

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
C-1	安曇川支流の北川、針畑川、安曇川本流の枝谷	巨木と水源の郷をまもる会		復活	マザーレイク フォーラム賞
C-2	善光寺川	竜王清流会	推薦		河港協会賞
C-3	琵琶湖・狼川	アイキッズ ～エコアイディアキッズびわ湖～		復活	グランプリ
C-4	草野川	徳山環境保全会	推薦		準グランプリ
C-5	木の岡ビオトープ	おにぐるみの学校			

4) 大会ダイジェスト

1月14日(月・祝)

会場：コラボしが

● 開 会

淡海の川づくりフォーラムは今回で6回目となります。第4回からは、県民のみなさんとともに企画運営を行うことを目的に、淡海の川づくりフォーラム実行委員会を設置し、実行委員会主催でフォーラムを開催させていただいています。

淡海の川づくりフォーラム実行委員会の北井香実行委員長の開会宣言で、フォーラムが始まりました。ドキドキ、わくわくの一日のはじまりです。

● テーブル選考 テーブル A~C

滋賀県内・外から応募によって集まった15団体が、それぞれの発表内容から大まかなテーマごとに3グループ(1グループ5団体)に分かれてテーブル選考が行われました。

発表時間は1団体あたり5分で、質疑応答とテーブル・コーディネーターの進行により、約1時間30分かけて、それぞれの参加団体から工夫を凝らしたたいへん熱い報告がなされました。発表後の選考員と参加者とのディスカッションを通じ、選考を進めた結果、各グループから2団体ずつ、計6団体が全体討論に推薦されました。

● 復活選考

午前中のテーブル選考で惜しくも全体討論への推薦を逃した団体が、もう一度全体討論への出場を目指して復活選考に臨みました。メイン会場に一同が集まり、自作のパネルを用いてアピールを繰り広げる様子は圧巻です！選考委員も選考に熱が入り、発表者と熱心に“いい川、いい地域づくり”について議論されていました。

● スペシャル・セッション

全体討論に入る前に、特別ゲストによる活動報告です。

昨年の第5回淡海の川づくりフォーラムでグランプリを受賞された「白鳥川の景観を良くする会」が、平成24年9月22日、23日に東京で行われた、第5回いい川、いい川づくりワークショップで取組を発表されました。今回、同会の吉田栄治さんに特別ゲストとしてお越しいただき、東京での発表報告を交え、活動内容を皆さんの前で披露いただきました。

● 全体討論

午後は、参加者全員がメイン会場にて、全体討論に臨みました。テーブル選考と復活選考を経て、全体討論には9団体が出場しました。さすが、全体討論への推薦を得た団体の報告はどれも内容の濃いものばかり！選考委員のみなさんも選考に頭を悩ませていました。

各団体の発表後は、会場全体でアピール内容について議論を行いました。活発な意見交換により、参加者同士の交流も深まり、ところどころで連絡先の交換なども行われていました。

● 表彰式

表彰式では、グランプリ・準グランプリに加え、全体討論の発表団体以外からも、河港協会賞や今回から新設された「マザーレイクフォーラム賞」も賞されました。

福廣総合コーディネーターからの全体講評の後、コメンテーターである嘉田由紀子知事からの挨拶で、熱い一日が無事に閉会となりました。

開会あいさつ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会 北井 香 委員長

みなさん、おはようございます。新年早々のお忙しい3連休の最後の日に、強い雨の中、足をお運びいただきまして、本当にありがとうございます。

今回で6回目の川づくりフォーラムということになりました。いつも最初のあいさつでさせてもらっているんですが、この川づくりフォーラムがどういう経緯で生まれたかについて、ちょっとご紹介したいと思います。



私が実行委員長になっていますけれども、この川づくりフォーラムは、住民でつくる「淡海の川づくりフォーラム実行委員会」という実行委員会形式でやっております。滋賀県の流域治水政策室さんには、事務局をしてもらっています。これは、2008年にありました流域治水検討委員会の住民会議のメンバーがみんなで行実行委員になっております。住民会議では、「水害から命を守る地域づくり」という内容の提案をしたんですけど、言っぱなしで私たち委員は離れてしまうんだろうかという気持ちがみんなにありまして、引き続き関わっていけるように、この実行委員会として流域治水の取組に関わり続けているということがあります。

この実行委員会はどういう会か、どういう会にしたいか、というのを少し説明しますと、水害から命を守るためには、自分たちで川に近づくこととか、川のことをもっと知っておくこと、地域のことに詳しくなること、というのが重要だろうということがありました。地域の中でのいろんな取組で、地域の人たちが仲良くなっていたり、活動が続くことが大事だろうという話をしていたんですが、じゃあそのために行政が何をしたらよいか、行政はそういう地域の取組とか住民の取組をサポートして、支えて続けやすくしていくという役割があるんじゃないかという話が出ました。そのような中で、住民の活動を応援していこう、また、次の年も活動するのに元気が出るような取組というか、何かそういう場を一つつくろうということで、この「川づくりフォーラム」というのが生まれております。

なので、今日は、いろんな視点で川や水に関わる活動をしていらっしゃる各地の活動団体のみなさんが参加していただいて、子供さんからお年寄りとかちょっと高齢の方まで幅広い世代でこの場に集えて、同じ場で発表してもらって、あわせて意見を交わせるというのは、すごくありがたい機会だなと、毎年思っております。

今回の場は、みなさんの活動をそれぞれが褒めてあげる場です。審査をするわけではなくて、いろんな活動の良いポイントというのをみんなの目で探して、前に座っていただいている選考委員の方たちが代表で褒めてあげる。そして、参加者のみなさんも、是非いろいろと気づいたところ、「こういうところがこの活動の良いところだな」と思ったところがあったら、是非表明してもらって、それぞれの参加者同士でも褒め合って、次の活動のアイディアにな

るとか、「あ、うちの活動はここを伸ばしたらいいんやな」という発見があるような場にできたらなと思っております。

一日どうぞ楽しい時間を。それぞれの活動の中で、経験の中で、いろんなことを褒め合っ
て、伸ばし合えるような日になっていくように。

どうぞ、みなさま、よろしくお願いいたします。

スペシャル・セッション

白鳥川の景観を良くする会（白鳥川（近江八幡市）） 吉田 栄治さん

みなさま、こんにちは。ただいまご紹介をいただきました「白鳥川の景観を良くする会」、近江八幡に白鳥川という川がございますが、その代表をさせていただいております吉田と申します。まだまだ未熟な点多々あるかと思いますが、ひとつまた何かのご参考になればなということで、ただいまからご紹介をさせていただきますので、どうかよろしく願いいたします。



白鳥川は近江八幡の中部を流れている川で、琵琶湖から上流約5キロくらいのところに白鳥橋があります。JR がわりと近いところですが、この橋から下流をみた感じは、三面ともそのままの状態に残っているすばらしい自然いっぱいの川です。

2006年2月に、白鳥川がポイ捨てゴミ等で非常に見苦しく、景観を損ねていたため、会を立ち上げました。現在、65名で月二回の活動をさせていただいております。毎月第1水曜日、第3水曜日ということで、「川」→「水」→“水”曜日に活動の日を設定させていただいております。JRから湖岸までの約5キロの区間ですが、活動内容は定例活動と事業の取組ということで、定例活動は除草作業、ゴミ拾い、それから花とか桜の木を植える等の活動をさせていただいております。

この白鳥川の流域には、市立医療総合センターがございます。もう少し下流に行きますと、さざ波浄苑ということで、ここは火葬場でもあります。みなさん、長い人生の間には病院もさざ波浄苑も一度はお世話にならないといけないところがありますので、この道を人生の花“道”になるといいかなという思いで、活動をさせていただいております。ここが作業をしている場所です。非常に長い距離でございます。

主な事業取組としましては、ひとつは「さくらぼんぼり」。桜のシーズンに先ほど見ていただいた非常に素晴らしいぼんぼりをつけて、夜は点灯してひとつみなさんに楽しんでいただこうということで、メンバーが一人一個ずつ自前でぼんぼりを作ってやらせていただきました。また、病院の前には、こいのぼり、これもメンバーの不要になったこいのぼり、また地域の不要になったこいのぼりをご寄贈いただいて、こいのぼりの川渡しを4月から5月にかけてさせていただいております。これは病院の前に付けましたので、入院患者さんから大変喜んでいただいております。中には「見て元気になった」ということで、私たちの活動に参加いただいた方もいらっしゃいます。

これは川に近い小学校の桐原東小学校の五年生の子どもたちですが、校長先生にもご提案をさせていただいて、この川をみなさんの環境学習の場にとということで、校長先生も大変これは素晴らしいということで、3年前から毎年10月に環境学習をして

おります。

それと、情報発信ということも含めて、今まではこの景観隊でブログをやっていたのですが、今回新しく“SKY（スカイ）484”というホームページを始めました。これはスカイツリーだからSKY（スカイ）ではないんです。白鳥川の“S”、環境の“K”、良くしようの“Y”、“484”はAKB48ではなくて、滋賀県の4（し）、八幡の8（はち）、白鳥の4（し）ということで、名前を付けてあります。後でみなさんにホームページを見ていただければ、この内容がよくわかっていただけたらと思います。

今年の24年度の活動は、4月から12月までですけれども、実施回数17回、参加人数534名、除草距離は12,820メートル、ごみの回収は1,665キロです。この8年間の累計では、実施回数158回で4,772名の参加をいただいております。約85,700メートルの除草距離、ごみは約11トン強を回収しております。このような活動で、昨年はおこなわれました嘉田知事の方から、グランプリ賞という素晴らしい賞をいただきました。こうすることで、今回栄えある場所でまた発表していただきたいということで、今回発表させていただいたわけでありまして。

こういうこともありまして、実は県の方から「全国のいい川・いい川づくりフォーラムに参加したらどうだろう」というご提案もいただきまして、東京のフォーラムに参加させていただきました。昨年の9月22日と23日ということで、二日間ございました。場所は、東京オリンピックのときのいわゆる選手村の一部だった国際オリンピック記念青少年総合センターを会場としてやられたということです。主催は、いい川・いい川づくり実行委員会、後援は国土交通省ということでありまして。

滋賀県からは、今日も来ていらっしゃいますけれども、竜王清流会さんと私たちのちょうど2団体の参加でございます。今日の会場でもお会いさせていただきました。懐かしいのでいろいろと話もさせていただきました。

まず全体発表で、1グループ3分で話しをするということで、全体で30団体、海外からも3団体参加されています。発表会場はこういう感じで、みなさん、発表時間は3分ですけれども、非常に中身の濃い、ワンポイント、ツーポイントの内容で、インパクトのある内容で発表されています。これは、大阪の方の発表なんですけれども、橋のところにライト照明をつけて非常に面白い取り組みをされているケースもございます。

全体発表が終わりましたら、30団体は全部で6テーブル、各テーブルだいたい5団体くらいにわかれまして、各テーブルにコーディネーターの方が5、6名つかれます。ちょっと狭い部屋やったんですが、私たちはDテーブルで、5団体が先ほど言い忘れたこととか、発表できなかったことを自己紹介を兼ねてPRをさせていただき、あとはコーディネーターの方からどんどん質問を受けてすぐに回答させていただく。それでコーディネーターの方の投票で2団体を選ばれる。おかげさんでこの第一次選考は選んでいただくことができました。

参加された30団体の内訳ですが、北海道から九州、それから韓国からも来られて

いました。近畿からは8団体ということで、やはり近畿が一番多かったんですが、琵琶湖もありますので、滋賀としてはもっともっと多くてもいいんじゃないかなという感じもいたします。韓国の場合は海外からということで、全体発表の前に発表されました。

今度は全体選考ということで、これは第二次選考になるわけなんですけど、入選者は6テーブルから2団体としますと12団体プラス復活選考団体が入りまして、このときは復活選考が4団体ぐらいあったかと思うんですが、全部で16団体ぐらいの発表がございました。ここで二次選考を受けて8~10団体が選ばれるというような内容でございました。

最後は、全部の発表が終わりましたら、審査員の方がいろいろとみなさんからの質問も受けられたり、中には先ほどの一次選考の時のコーディネーターの方が、また自分のテーブルで選ばれたグループをバックアップしようということでPRをされたり、非常に白熱した内容で、大変会場も盛り上がったということでございました。ここで入賞者、グランプリ賞が決定となります。

わたくしは、全体では選ばれなかったのですが、一次選考で選ばれたということで入選という賞をいただくことができました。その賞の名前は「リタイヤ世代が5kmの川の人生の花道を拓くで賞」という賞でありまして、本当にありがとうございます。

その時に私の説明した発表の内容でありますけれども、全体の状況を説明させていただきながら、朝のミーティングから作業の風景とかこういう状況で毎回活動をさせていただいています。

あとは取り組んでいる内容ですね。ぼんぼりとかこいのぼり、さらには環境学習をやっておりますのということを紹介させていただきました。



さらに桜並木の保全、それから安全パトロールのメンバーの「3づくり」ということで「健康づくり、生きがいくくり、仲間づくり」という内容もちょっと紹介をしました。また、過去6年間の活動実績の平均、いわゆる除草距離とかゴミのとれた量とか、参加人数がどれだけ増えているか、それから実施回数、それから桜の木の増えた本数なんかをグラフにして紹介しました。何しろ3分ということですので、あっという間で、あれも言いたいこれも言いたいというのがつつい出てきまして、時間オーバーになってしまったんですけども、紹介をさせていただきました。

参加した感想でございますが、淡海の川づくりフォーラム、これはこれで県内のいろんな情報が、いろんな取組がわかって非常に私はよかったなと思います。しかし、また全国は全国で、北は北海道から九州・沖縄まで、全国からいろいろと参加されておられますので、いろんな取組の内容を聞かせていただきました。特に産学連携の取組とか、中には日韓大学の交流を通じた取組とか、川だけではなくてダム湖の取組な

ど、今後の活動の参考になったなと感謝をさせていただいております。

二点目は、韓国でも3グループ発表されたのですが、本当に同じようなことをやっておられました。今日は朴先生が審査員でいらしておられますけれども、本当にわたくしは飛行機に乗るのが嫌いで、海外まではあまり行ったことがございませんが、ぜひこれから韓国に行きたいなと思った次第であります。非常に身近に感じました。

それと三点目。3分間の説明、映像の紹介というのは難しさを痛感いたしました。一つこれも勉強だと思って、皆さんにより分かりやすい映像なり説明とはどういうことかなということも、これからいろいろ勉強してやっていきたいなと思いました。

今後の抱負としては、やはり再度チャレンジをして全国でグランプリ賞が取れるように、ひとついっぺんチャレンジしてみたいなと。全国のグランプリ賞が取れると、韓国でも同じようなことをやっておられるので、韓国の方へ行っってそれを紹介することができるそうでありますので、今後の目標にしたいです。そのためにも活動のさらなる継続と充実した取り組みをがんばっていきたいなと思っております。

実はですね、先ほどぼんぼりというおりましたけれども、そのなかで毎年、環境学習を小学生とやらせていただいておりますが、いままで全国大会なんかの参考もいただきながら勉強していきたいという思いもありましたので、今年の4月の桜ぼんぼりでは、こういうことを考えております。

その環境学習がおわった後に、小学校5年生の方が川に入ってどういう風を感じられたか、自然に対してどう思われましたか、ということをお紙に絵を描いていただきました。これは学校にお願いしまして、学校の先生方にきちんとご紹介いただいて、用紙は全部私の方で準備させていただいて、これを小学生の方に描いていただきました。小学生が将来の思いを込めて書いていただいた絵をぼんぼりに使わせていただこうということです。

ぼんぼりを今回は四面にしまして、二面は景観隊の挿絵を、そして小学生の描いた絵をそれぞれ二面ずつ入れて、このぼんぼりを作成させていただきました。

このぼんぼりは今、近江八幡の図書館で「おやし連作品展」というのをやっておりますけれども、今月30日までやっております。この二階の展示スペースのところに、小学生が描いていただいたぼんぼりを全部展示させていただいております。今回はこれだけでは足りませんので、これに地元の自治会の子供会、何か所かの自治会がありますが、そこの子供会の方にも、自治会長さんにご協力いただいて、皆さんにも参加いただいて、一つ地域社会と連携をした啓発活動の輪をさらに広げていきたいなという思いで、今回はやらさせていただきます。

昨年は250mのぼんぼりの吊り下げでしたが、今年の4月は850mということで予定しておりますので、ぜひとも4月は近江八幡までおいでいただければと思います。

以上でつたない内容かとは思いますが、何かの参考にしていただければと思います。どうもありがとうございました。

テーブル選考結果発表

テーブルA (テーブル・コーディネーター 小丸和恵さん)

みなさんおつかれさまでした。

テーブル A では、非常にみなさん力の多い団体さんに集まっていたかきまして、選ばせていただくのが本当に難しかったです。

みなさんといっしょに選ばせていただくということで、審査員だけではなく会場に集まっていたみなさんからも、自分のところの団体以外の一押し団体ということで1票づつコメントとともにいただきまして決めさせていただきました。

それでも決まらず、最終は、お部屋でみんなで拍手をして、どちらの音が高かったかということで決めさせていただきました。

そういったことで選ばせていただいた団体ですが、「勝部自治会」さん、それから「愛知川塾」さんの2団体を選ばせていただくことになりました。

勝部自治会さんですが、本当に多世代を巻き込まれて、子どもたちの川や川沿いで学習といったようなことから、月1回の防災訓練、そういったことをずっと継続されていたり、火祭りを催したりということで、伝統をつなぐような活動をされているという、多岐にわたった活動を継続して、多くの人を巻き込みながらされているところが非常にポイントが高かったかと思ひます。(1:57)

愛知川塾さんは、こちらは平成18年に「お魚調査隊」ということで始まったそうなんです、最初は補助金つきで始まった調査らしいのですが、補助金が切れたあとでもがんばっていこうということで、みなさんで愛知川の石の勉強会でレベルアップをしたり、自然についてのPR活動ということで水族館を用意されて小学校やJR駅や福祉施設などいろんなところに出かけていってPRをされているといったこと、また景観を守るような活動もされているということでがんばっておられます。平均年齢は65才なんだけれども、子どもたちにこのような形でお魚を見せたりしてだんだんと興味をもってもらふことで、子どもたちとつながっていただくというところへの期待をこめて、こちらの団体に入れさせていただきました。

そういうことで2団体の報告となります。

テーブルB (テーブル・コーディネーター 菊池玲奈さん)

テーブルBのコーディネーターをさせていただきました菊池と申します。

私自身、熱気のある議論の中において、まだ頭が飽和状態でちょっとまとめてお話ができるか不安なところがあるのですが、B部グループからは、「東近江市立能登川南小学校」、「母なる川保津川基金」の2グループを選ばせていただきました。



Bグループの方でも、選考員の方からは「付箋を5票張らせてください」といった話があったくらい、みなさん本当に素晴らしい発表で、各団体のみなさんに2票ずつ票をもっていて自分たちの団体以外の団体に投票をお願いいたしました。



東近江市立能登川南小学校さんは、前にありますように8票、全選考員、全グループからの推薦で Bグループから午後の選考への参加をお願いしています。

小学校5、6年生21名の方が、エコスクールのお話をしていただいたのですが、詳しいお話は午後に是非みなさんにお聞きいただきたいのですが、単に小学校の取り組みということではなくて、森林組合それからPTA、地域の家庭、高校生といったところとさまざまな課題に直面するたびに助けを求めにいて、その結果また新しい活動が生まれていく、コメントの中で特に多かったのが、大人どうしの方が環境活動、環境問題大事だけどできないでいることが多いわけですが、子どもたちは純粋にそれに取り組んでいくということでおそらく地域の中で波及をしていっていろんな大人を変えていってくれるんだろうというような未来のあるお話を聞くことができました。

それから、母なる川保津川基金さんは、滋賀県内じゃないのが残念だとの話がみなさんからあったんですけども、保津川のほうで取り組んでおられる活動なんですけれども、活動は非常にすばらしすぎて私の口からうまくはいえないんですけども、実際に保津川で活動を進められて入る団体さんに対して、なかなか今の助成金では使い勝手が悪いなど、さまざまな問題を抱えているわけなんですけれども、地元の企業さんをお願いをして、そういったものの売り上げの一部を保津川を守る活動の基金として積み立てて、それを実際に活動される方に配分をされていくという仕組みそのものもすばらしいですし、またそこから生まれてくるブランドの美しさ、それから実際に食べてすごくおいしいという話もありまして、こういったシステムがまさに必要になってくるよねということで、6票獲得のうえで午後の選考に進んでいただいています。

また、それから残りの団体さんも、本当に個性豊かで熱意のある活動でしたので、是非、これから午後の復活選考で残ってもらおうということで、みなさんで応援しましょうということで会を進めさせていただきました。

以上、Bグループの発表を終わります。

テーブルC (テーブル・コーディネーター さとうひさるさん)

テーブルCですが、本当にそれぞれすばらしくて、活動のすばらしさもありますが、それぞれの団体が本当に工夫された発表をしていただいて、本当に選ぶのが苦しかったテーブルになっています。

1団体ずつ、よかったところを説明させていただきます。



C1の「巨木と水源の郷をまもる会」さんは、前回のグランプリということで、前回からもプレゼンテーションの素晴らしい映像をみせていただきまして感動的な取り組みをまだ続けられていて、今回発展していたところとしては、下流と上流をつなぐ仕組みということで、上流の栃の木の水源地の郷をまもるためには、下流との連携が大切であろうということで、針江の里で苗を育てて上流で

栃の木を植樹するということを新しく始められているということで、これもとても素晴らしいことだなあとということでお聞きしていました。

C2「竜王清流会」さんですが、選考委員の方で選ばせていただきました。非常に毎回参加者が多いということで、その参加者の多い秘訣という点に質問が集中しまして、いろいろチラシなども工夫されているということでした。また、地域の中で人をつなぐ秘訣はなんですかとお聞きしましたら「メンバーの人望に他ならない」ということで、人が人をつないでいくというのが目に見えるように、また明るく楽しく発表をしていただきまして、それが好感を得たかなと思っております。

C3「アイキッズ エコアイデアキッズびわ湖」さんの活動ですけれども、元気な子どもたちが発表をしていただきました。伝統食づくりという、ちょっとこどもにはなかなか琵琶湖の伝統食になじみがないというか大人のたべもとというような「なれずし、ふなずし」が多いですけれども、こどもの視点で、実際に作ってみていろんな生産者の方やお米を作っている方やお酒を造っている方とも関わりながら伝統食づくりをしていこう、体験していこうという活動をされています。テーブル選考の最後のほうで、子どもたちに活動で気づいたことを伺ったときに、伝統食を体験することで、琵琶湖の魚というただそういうことだけではなくて、命のつながりを、そして自分と琵琶湖のつながりを感じ、食べ物も自分たちで作ることができたということで、有意義な活動をされているのではないかなと思いました。(10:17)

C4「徳山環境保全会」さんですが、こちら也非常に地域に密着した活動をされていて、河川の大改修の後にどのようにその河川を地域のものとして地元の人が育てていくかということをととても熱心に取り組んでおられるという印象を持ちました。

今回は彼岸花を植える取り組みをされているということで、春は桜がきれいなんですけれども、秋にも何かということで地元の方々のアイデアで彼岸花を植えようということで、地道に活動をされている様子がよく分かりました。

印象に残ったのは、河川に関わることで村づくりの契機になっているということがプレゼンテーションの中でお話がありました。それが村づくりの活気になっているのがたいへんよく伝わってきて、それが選考員の心を打ちまして、今回はCグループの中で推薦をさせていただくということになりました。(11:52)

C5「おにぐるみの学校」さんですが、こちらは冊子に書いていただけではわからない非常におもしろい、着目すべきポイントがありました。マイナスイメージのあっ

た「幽霊ビル」の跡地でビオトープの活動をされているということで、なかなか手の付けづらい土地だったために残されていた環境というのをプラスに活かしていこうという取り組みをはじめているということです。これからはがんばってほしいというエールが選考員の方からも意見がたくさん出ました。これからは是非応援したい団体の一つとして選考員からも推薦の声もあがりましたが、今回は「竜王清流会」と「徳山環境保全会」さんの2団体をテーブルCから選考させていただくこととなりました。

全体討論

総合コーディネーター：福廣勝介さん

コメンテーター：嘉田由紀子さん、片寄俊秀さん

全体選考員：朴恵淑さん、松尾則長さん、遊磨正秀さん

全体討論における発表団体：9団体

テーブルA

〈推薦〉 A-1 勝部自治会

〈推薦〉 A-2 愛知川塾

【復活】 A-3 山内エコクラブ

テーブルB

〈推薦〉 B-3 東近江市立能登川南小学校

〈推薦〉 B-4 公益財団法人 京都地域創造基金（母なる川・保津川基金）

テーブルC

【復活】 C-1 巨木と水源の郷をまもる会

〈推薦〉 C-2 竜王清流会

【復活】 C-3 アイキッズ～エコアイディアキッズびわ湖～

〈推薦〉 C-4 徳山環境保全会

（注：〈推薦〉はテーブル選考で推薦された団体、【復活】は復活選考で推薦された団体）

福廣さん：これから全体会を始めさせてもらいたいと思います。まず、全体討論の選考委員・コメンテーターから簡単に自己紹介をしていただけたらと思います。僕からご指名させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

朴恵淑先生です。

朴さん：改めまして、みなさまこんにちは。全体選考は今年で2回目ですけれども、まだ全体の話を聞いた訳ではなくて、たまたまCテーブルの話を聞いたのですが、ものすごく高いレベルで、これは全国大会のいい川・いい川づくりワークショップ



に出ても全員グランプリなのではないかなと思うほど、発表時間が3分と5分の差があるにしても、素晴らしい内容でありました。

私が選考する時に、特に大きく3つの側面から見たいと思っております。

はじめの一点は、きちんと地域に根を下ろして活動するんですけど、世代間とか、あらゆる方面の連携を組んで活動していくようなもの、例えば、今はそうでなくてもそういう可能性や将来性が見込めるものだったら良いなと思って、連携を組んでいただけないかなというところを見たいと思います。

それからもう一点が、人生の花道も良いのですけれども（笑）、子どもの花道をつくってはどうかということもありますが、公正に考えていきたい、両方から不満がないようなバランスのとれた選考をしようと思っております。

最後に、大変残念ながら、最終選考に上がらなかったんですが、反省をしているところに点数をあげたいなと思います。自慢すると同時に、反省をして次に行くというのも勇気のあることだと思いますので、今はダメけれども未来を見据えて甘く付けていきたいなと思います。

全体的にみなさんから不満の声が出ないようにできるだけ努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

福廣さん：松尾さんお願いします。

松尾さん：はじめまして。松尾と申します。私は「犬上川を豊かにする会」に所属しております。この会は産・官・学・民という、設立当初は大変珍しい会でありまして、第3回世界水フォーラムの時に、東京で行われたプレ・フォーラムで、私まだ2ヶ月か3ヶ月しか経っていないのに、知事さんと一緒に参加させていただきました。私は本来ボランティア以外やったことがなく、自分でプレゼンするのはしゃべれるんですが、今回こういう判定をするというのはちょっと私には似合わないのですけれども、流域治水検討委員会に私が参加していたということで、本来なら座長の大橋正光さんがここにお座りになっていらっしゃるのですが、今回はちょっと所用で私がピンチヒッターに立てということで、ピンチヒッターの役目しか出せないと思いますが、よろしくお願いいたします。

福廣さん：遊磨先生、お願いします。

遊磨さん：遊磨です。よろしくお願いいたします。龍谷大学の瀬田学舎に勤めております。僕自身は生き物大好き人間で、生き物を生業の一部としています。人も生き

物の一部というのは僕の考えであり、人と生き物はバラバラではなくて、人は生き物の一部です。実は、朴さんが全部言っちゃったので言うことがなくなったのですが（笑）、ネットワークというものが非常に大事だと思っておりますので、そういうところをしっかりと聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

福廣さん：片寄先生、お願いします。

片寄さん：片寄と申します。名前が変わってるんで、「あいつ片寄っとる」と良く言われるんですが（笑）、公正に審査をしたいと思います。私の名前は「肩寄せ合って生きていこう」という、非常に優しい心の持ち主でございます。（笑）

第1回からこの川づくりフォーラムに委員で参加させていただいております。だんだんだんだん充実してきて、これどうなるのかなと。しかし、琵琶湖が本当に良くなっていかないと。私は今尼崎に住んでおりますが、尼崎市民も琵琶湖の水を頂いているんですよ。だから、この環境を滋賀県でがんばっていただくのは、私自身の命にも、家族の命にもかかわっております。このような活動が本当に良い環境を作る基本だと思いますので、そういう視点で選ばせていただきたいと思います。

今日はよろしくお願いいたします

福廣さん：知事、お願いします。

嘉田知事：さきほど、松尾さんが言って下さったとおり、私は、いい川づくりの活動に十数年前でしようかね、東京で山口さんたちがやっていたところに最初に行った時に、とっても新鮮で驚いたんです。色々な活動をしている人たちをよく評価とか審査する、それ後ろ見えないんですよ。審査室に入って、誰か偉い人が点数付けて、そして、はいグランプリです。こういうのはおかしいなと思っていたんですけど。

このいい川づくりは、評価をする人もされる人もみんな裸で見られているんです。ですから、1票貼るときに背中を目線を感じながら、私はなぜここに1票を貼るんだろうということを説明できないと貼れない。だから、貼る人も貼られる人も、みんなが同じ立場です。これが、東京のいい川づくりの見事なところだなと思って、こういうのをまた滋賀でやれたらいいなと思って、いよいよ6回やってきました。

みんな同じ立場で、次回は審査する側に入るかも知れないけれど、でもまた発表して活動する側に入るかも知れない。この立場が相互に行ったり来たりするという

のがダイナミックなところですので、今日は後半に、みなさん追求してください。

「なんでおばちゃん、ここに入れないの？」とかね（笑）、「なんで私たちに入れたの？」とかね、私は、子どもたちの声が一番心に刺さるだろうなと思っております。

それから、もう一つは活動の中に「Why」、なぜここにという着想、最終何を求めるのかということと、それを実現するために「How」、いかにうまく積み上げていくか、仲間を作ったり、いろいろ工夫をしたり、苦心をしたり、苦勞をしたり、それをみんなで共有できる、プロセスを共有できる。

その二つの点で、今日は私自身も背中に目線を感じながら、発言と最終のコメントをさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

福廣さん：嘉田知事、ありがとうございます。僕も、この全体進行はこれで3回目をさせてもらうんですけども、こんなことさせてもらうもんですから、15の発表全部を生で見せてもらえないのは、非常に残念だなと思っております。それで午前中のテーブル部門では、選ぶと言うことをせなあかんのは、みなさんやっぱり困りますね。「こんな酷なことさせてくれるな。」と大体選考委員の方は言いますね。

「そうやな。」と。僕、解ったんです。選考とか審査とか試験とかとはやはり違うんですね。これは見本市やと理解したら別にええやんと思っているわけです。いっぱい出して「俺あれ好きや」「これ好きや」という風に考えてしまったらどうということはないなあ。これは選考委員という名前はやめた方がいいかわからんなあというようなことを思っているわけです。

どこかのページに4つの評価視点を、事務局に書いてもらっていますが、この視点すらみんなでチェックして「違うねん。違う視点があるねん。」ということもあるかもわからんし、3回も連続して進行させていただいている僕自身も含めて、選考委員も会場から選考されるべきやないかなと思っておりますので、できるだけ会場のみなさんのご意見を頂きたいと思います。遠慮なく背中から矢を刺すだけではないし、どんと正面からでも小言を言っていただけたらという風に思います。

ちょっと僕、特権で二つだけ話題をしたいんですが。

嘉田知事からもありました、東京のいい川づくりワークショップの山道省三さん、去年来ていただいたんですけど、今年ちょっとした手違いで来れないんです。今日実は徳島に行って、徳島の市民活動の会をやっておられます。去年、徳島の活動を

紹介いただきましたが、ゴミ拾いを一生懸命やって、ゴミがなくなってきたんで、ゴミを拾う権利をお金で売っている。「こんなおもしろいことをやっている徳島に行ってこよう。福さん、どうしても今日は徳島に行かせてよ。」という話で、「それはしゃあないなあ。」ということで。そんなわけで、山道さんは今日徳島に行っているんで、「みなさんにくれぐれもよろしく、お詫びをお伝えしてください。」というメッセージが入っています。

もう一つ、ここで、ぜひみなさんに紹介しておきたいと思います。このフォーラムは女性の方も多いんですが、去年、朴さんが津田梅子賞と環境大臣賞をダブルで受賞されているんです。ここでお祝いの拍手だけちょっとしておきたいと思います。

(拍手) 津田梅子賞、あの津田塾の津田梅子賞ですね。

いよいよ本番に入っていきたいと思います。これで終わったような気分なんですが。(笑)

全体の討論ですけれども、今トータルで9つあがってきているということです。この9つについて、議論していきたい、発表していただいてみなさんに質問していただきたいと思います。各グループ当たり3分とか5分とか厳しい話がありますけれど、一応発表5分と質疑5分で10分で進めていきたいと思います。9団体ですので90分ですね。そんなふうにはうまくいかへんやろなと思いつつながら。延びても3時半までにすませたいと思います。

それでは、順番ですが、いつもAから行っていますが、今日は逆からいきましようか。(笑) C-4から。(笑) まだ準備できていなかった。心の準備が出来ていなかった。(笑) C-4の徳山環境委保全会から。よろしくお願いします。なんかA、B、Cについてだけでも、甲乙丙みたいで、序列があるみたいですから。

徳山環境保全会：私たち、徳山環境保全会では、彼岸花の復活を目指して取り組んできた、6年間の活動を報告したいと思います。この赤いのが、私たちが6年間植栽してきました彼岸花です。それまでは、雑草や芋づるがはびこっていて、何とも言えない景観を呈していました。今では、9月のお彼岸のころになると、およそ1kmに



わたって、彼岸花が咲き誇るまでになりました。左側が草野川が流れています。伊吹山のふもとを流れる、姉川の支流です。この真ん中の道は、遊歩道兼自転車道となっている堤防です。毎朝犬を連れて散歩される人や、中学校へ通学する学生たちがたくさん利用しています。こちら側の右側の道が農道となっています。徳山町は田んぼがあって、この田んぼの向こう側にある小さな集落で30軒足らずの村です。今でこそこんなに咲くようになりましたが、1,2年目は花もまばらで、まだ見られるような状態ではありませんでした。3,4年目ごろになると、ようやくこんなまとまって咲き出すようになってくれました。今年、ちょうど6年目を迎えようとしているんですが、ようやく見られるようになってきて、見学に来られる方も出てきました。私個人としては、花よりは芽が出た瑞々しい様子が非常に好きです。

この活動に取り組んだ理由は、堤防を利用する人が増えてきて、堤防に花を植えてはどうかという話が持ち上がったのがきっかけでした。一昔前なら、お彼岸のころになると当たり前のように咲いていた彼岸花が、圃場整備や、それに伴う道路整備、また河川改修などによって、すっかりその姿を消してしまったことに気づき、もう一度草野川の土手に植えて、なんとか復活させようという5か年計画を立てました。男ばかりなので、ここに書いてあるように、今思えば笑い話のような意見もいくつも出されました。そして話し合いの結果、区民に声掛けをしたり、チラシを配布したりして、区民の方の理解を得ながらみんなで楽しく取り組もうということになりました。しかし、当時私たちの集落では、こうした活動をしたことがなかったので、区民の理解を得られるのか、また参加者があるのか、とても不安の中でのスタートとなりました。当日、集合場所で待っていると、ポツリ、ポツリと参加者が来られるのが見え、とても感動したことを今でも忘れません。子供からお年寄りまで、30人近くの参加者がありました。みんなでにぎやかに球根を植えました。大成功でした。私たち徳山にも、こんなエネルギーがまだあるんだなあと改めて見直してしまいました。家族連れで参加していただいた方もありました。当日は地方のTV局のZTVの取材があり、後日TVで放映していただきました。30軒足らずの小さな集落です。わが町でもやればできるんだなあという確信を持って、今後の取り組みに向かって大きな弾みとなりました。こうして以後6年間、活動がマンネリ化しないように知恵を出し合いながら、毎年新たな気持ちで取り組んできました。

これは球根を運んでいるところです。左のおじいさんは、90歳近くの方です。

毎年参加しておられますが、もうここ 1,2 年歩けなくなるくらいの方ですが、それでも参加していただいています。今年は、堤防だけでなしに、田んぼの畔にも植えました。

今までは植えることに力を入れてきたんですが、去年はせっかく咲いた花をもう少し楽しんでみようということで、彼岸花の花見会を実施しました。ただ彼岸花を見て歩くだけなので、参加者がホントにあるのかどうか心配でしたが、たくさんの参加者があり、和やかに実施することができました。足の弱っている方も、車で迴ったり、車いすで参加されたりしました。皆さん周りの方も非常にあたたかく接していただきました。

一時間ほど歩いて、一回りしました。そして堤防にムシロを引いて、ささやかな茶話会をしました。田舎でも人間関係は希薄になってきています。普段あまり話をする機会が少ないため、ワイワイと楽しく交流を深めることができました。こんなふうに堤防にムシロを敷いて、何の違和感も感じなく、当たり前のようにこんなことができることを、とてもうれしく誇りに思っています。

福廣さん：ちょっと時間が・・・。

徳山環境保全会：はい、すいません。はじめは彼岸花を増やしきれいに花を咲かすことを大きな目標としてきましたが、年を重ねるごとに、こうした取組が区民のきずなを深め、村づくりに貢献していることを実感するようになりました。今後も、「無理なく、楽しく」をモットーに取り組んでいきたいと思えます。これで終わります。
(拍手)

福廣さん：さて、では 3 団体ずつ発表していただきましょうか。全体選考員の方、質問したいこと、忘れないようにメモしておいてください。発表ありがとうございます。

そうしますと、次は C-3 のアイキッズさん、よろしくお願いします。

アイキッズ：みなさん、こんにちは。草津市の子どもエコクラブ、アイキッズです。毎年、4 月にどんな活動をするか、みんなで話し合って決めています。その様子を、覗いてみましょう。

「今年はどんな活動にしようかな。ところでなぜみんな、琵琶湖の環境を守りたい

の？」

「はい。琵琶湖からは、たくさんの恵みをもたらしているからです。」

「琵琶湖の恵みには、どんなものがあると思いますか？」

「はい。きれいな景色。」

「はい。飲み水。」

「はい。いろんな魚。おいしい魚がとれるらしいよ。」

「たくさんあるね。でも、琵琶湖の魚を使った料理知ってる？食べたことある？」

「なーい」

「鮎は苦いし、鮎ずしはむっちゃ臭いらしいよ。」

この後、先生から、滋賀の五つの食文化財について教えてもらいました。ほとんどの子が見たことも食べたこともありません。そこで、“伝統食作りを通して琵琶湖の恵みを知ろう”という活動テーマに決めました。人と人とのつながりを大切に、伝統食を作るときには、詳しい方を招いて一緒に作ったり、食材や調味料は生産地を訪れ、手に入れたりしました。

まず、アメノイオ御飯にチャレンジです。野洲の漁港に行き、漁師の松沢さんから、琵琶マスを分けてもらいました。ご飯は、野洲のゆりかご水田を見学し、農家の堀さんから、ゆりかご水田米を分けてもらいました。昔ながらの醤油づくりをされている遠藤醤油さんを見学して、しょう油を分けてもらいました。そして、こだわりの食材がそろってから、漁師の松沢さんと一緒に作った、アメノイオ御飯は、とてもおいしかったです。漁師さんに鮎やエビを分けてもらって、一緒に湖魚の佃煮もつくりました。瀬田のたにし飴屋の辻さんを尋ねて、竹の皮をもらい、丁稚羊羹づくりをしました。日野町の岡さんの畑で、日野菜の収穫を体験し、加工場でできたての日野菜漬をたべました。最後に紹介するのは、なれずし作りです。魚は、守山の漁師の戸田さんに分けてもらい、塩切をしました。

「今日持ってきた魚は、今朝エリでとれた魚です。ニゴロブナ、ハス、オイカワ、ウグイ、カマツカ。そして、ニゴイです。」

「おっきーい」

「まず、うろこを取ったり、内臓を出したりしましょう。」

「初めて魚触った。」

「ぬるぬるやな。」

「できたかな？しっかり洗って、塩に漬けていきましょう。」

「はい。」

二か月後、塩切をしていた魚を上げて、ご飯に漬ける日が来ました。ご飯は、ゆりかご水田米です。つけるときにつかうお酒は、草津の太田酒造を見学し、分けてもらいました。ご飯に漬ける作業は、滋賀の食文化研究会の堀越先生に教わりました。約半年後、いよいよなれずしを上げる日です。

「さあどうなったかな。あけてみましょう。」

「すっごい臭い。」

「食べてみます。パク。うん、おいしくできあがっていますよ。」

「エー。食べたーい。」

私たちは、今年一年お世話になった方々を招待して、なれずしパーティを開いて、おいしくできたなれずしを、みんなに食べてもらうことにしました。パーティになれずしを選んだのは、滋賀の人々にとって、なれずしは、昔からおめでたい日やお客さんが来た時のおもてなしの料理でもあったからです。これまで紹介した以外にも、瀬田でシジミ漁をしたり、湖西で地引網漁をしたりして、捕ったシジミや魚を食べました。このように、活動してきたことを、発表や壁新聞にまとめて、県内外の発表会で伝えています。私たちは活動を通して、伝統食には、故郷の食材や気候を上手に生かす、昔の人の知恵が詰まっていることを知りました。また、滋賀の人々の生活と琵琶湖とが、深くつながっていたことを知り、意識の中で遠かった湖をもっと身近に感じることができました。最近では食べる機会が減ってしまった伝統食ですが、故郷の大切な食文化として、私たちも引き継いで、次の世代にも伝えていきたいです。また、食材を生み出す、故郷の豊かな自然環境も残していきたいです。ありがとうございました。

「(全員で)ありがとうございました。」(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。元気ですね。琵琶湖直結の食のにぎわいを報告していただきました。着替えも素早いんですね。(笑)

次は、C-2 竜王清流会の皆さん、よろしくお願いします。

竜王清流会：みなさん、こんにちは。愛が薄くなっている現在、人情とふれあいを重視



する、それが清流会です。それでは、竜王清流会の取り組みについて、環境美化作戦についてご紹介をさせていただきます。

みなさんご承知の通り、名神高速道路竜王インターチェンジ、国道8号線から国道477号線に沿うように、一級河川で、砂防河川でもありません善光寺川が流れています。かつては一里川原と

も言われ、白い砂がまぶしい河川敷でした。その当時は、運動会やレクリエーション、そして秋にはモミを干したりして利用されていました。

そんな善光寺川もいつしか荒れ放題となっていまい、一時は砂防工事もなされましたが、その後放置されジャングルのようになっていまい、このままでは川と林が分からなくなり、このままではいけないとボランティア団体を募り、平成20年12月に「子供たちにきれいな川を」をキャッチフレーズに「竜王清流会」を立ち上げました。

まず河川環境美化作戦、第1弾には平成21年1月に草刈りや雑木の伐採をさせていただきました。呼びかけにつきましては、ポスターや有線放送で、沿川の企業様には、そしてまた区長様にはチラシ等を配布いたしました。

実践当日、雪がちらつき冷たい木枯らしが吹く中、一体何人の方が参加して下さるか心配でなりませんでした。それがどうでしょう！530名の方が参加してただけました。本当に胸がつまるほどうれしかったです。滋賀県嘉田知事さんも激励に来てくださって、みなさんと一緒にあたたかいおにぎりや豚汁を試食していただきました。ぜひともこの取り組みを続けてほしいと熱いメッセージを残され、お帰りになりました。

たくさんの方々の力によって、みるみる昔の善光寺川の姿が戻りつつあります。危険な作業もありましたが、みんなが声をかけあい、助け合って無事に作業を終えることができました。

刈り取った雑草や雑木をどうして処理をしていったらよいか、心配がありました。これらの処理を一体どうしようと悩んでおりましたところ、竜王建設協会様14社の皆様が重機やダンプカーを出していただき、プロの技をもってきわめて手際よく刈り取った雑草や雑木の運搬を行ってくださいました。その後も人が立ち入りに

くい急斜面や、有志の方々にコツコツと続けていただき、でこぼこになった川底の整地までご協力いただきました。いずれの方々も今月までの3年間、無報酬で、とにかく昔の善光寺川を取り戻すんだ、という強い使命感と連帯感でやりきっていただきました。

見事によみがえった善光寺川で、子供たちが喜びイベントとして夏には魚つかみや素麺流し、秋には刈り取った草でホクホクの焼き芋大会など、川辺で実施しております。毎回100名を超える方々が参加していただき、今ではそのイベントが恒例となり、楽しみに待っております。

さらに竜王インターには、大型ショッピングモールのアウトレットが2年前に開業され、多くの方がこの竜王町を訪れてもらっています。休日にもなりますと、渋滞も起こってまいります。ドライバーの皆さんがこの善光寺川の景観をながめていただき、春には花の街道となるよう、竜王ライオンズクラブ様のご協力のもと、長野県から取り寄せた花々の植樹を行っております。四季折々の花を咲かせ、ときには子供たちが水辺で水遊びや散策ができるよう、今後もこの取り組みを続けていきたいと思っております。

以上、竜王清流会の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。子供たちにきれいな川をいついつまでも守りましょう。(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。発表は清流のように、流れるようにしていただきました。(笑)

ここで、発表の3分の1が終わったところで、忘れないうちにこのへんで質問を。発表された3チームの代表のかた、ちょっと前の方へ出てきていただくと、質問への返事がしやすいのではないかと思いますので。C-2,C-3,C-4の皆さんの代表の方、ちょっと前へ出てきてください。

どなたからでも結構です。質問を。

会場から：瀬田川リバプレ隊の事務局をやっております後藤と申します。

一番最初に説明された彼岸花のことで。(彼岸花を植えているのは)たぶん県道のそばだと思うんですが、あれを植えるときに、市なり県なりに許可を取ってされたのでしょうか。と言いますのは、私どもが小紫式部というものを、これは国が最初にやったんですけれども、瀬田川の左岸の石山寺の前で植えてまして、それが、

ここ数年私どもがずっとこの周辺の維持管理をしているんですが、その時に国土交通省のほうから特別に許可をいただきまして、そのメンテナンスをすると。勝手にやってはいけないんです、ということで非常に恩に着せられてやっているわけですね。(笑) 今も、「なにくそ」ということで、維持管理を毎月10日に実施しておりますが、彼岸花のほうはどうだったんでしょうか。そのへん教えていただければと思います。

徳山環境保全会：正直あんまり難しいことは考えないで、きれいになったらいいと、それが目的でした。それまでは土地改良区が草を刈っててくれていたんですが、自分たちも「刈るぞ」とやってみたんですが、なかなかきれいにならない。芋づるがあって雑草に負けてしまって、ぐずぐず、ぐずぐずしてきます。それでも、ずっと世話するというのを考えると、何か頑張れることを入れたらどうやということを考えて（彼岸花を）植えました。だから、許可を得るとかそういう難しいことは、聞いてはいましたけど、しませんでした。(笑)

福廣さん：あの一、どうですか。

会場から：関連の質問なんですけど、私もリバブレ隊の朝田っていいます。

今の彼岸花の件なんですけどね、うちは一級河川なんですよ、だから、モノを植えるとかそんなんはアカンということで、ここにも知事がおられるように土木事務所から制限されています。花やったらええということ言われているんですけどね。それで一点お聞きしたいんですけど、私のところは天井川でね、川底まで5~6mあって、斜面に草が生えて、1か月に一度草を刈らないと、きれいに刈っても1か月たったら元の木阿弥になるんですね。今の彼岸花を植えたら、ひよっとしたら、草が生えるのが止まるんじゃないかなと思うのですが、そのあたり聞かせてほしいなと思います。

徳山環境保全会：知事さんがおられる中で許可がどうかと言われると。本当に掘り起こさないとかあかんのかなと思いながら聞かせていただきましたが。(笑)

確かに草よりはきれいです。冬場はみな草は刈れるんですけども、彼岸花の葉は今生き生きとしています。秋もきれいなんですけど、僕はどっちかというところあの濃い緑の葉っぱがすごく好きです。そういうのを見ていただくのが僕は目標ですので、許可の話はちょっと申し訳ないですけど、僕に聞かれてもちょっと答えにくいので・・・。

会場から：彼岸花を植えることで、他の雑草が生えるのが止まるのかなと思って。それだけ聞きたいんですけど。

徳山環境保全会：それはちょっと微妙なところで。ソバと違って、雑草を抑えるという力はたぶんないと思います。ある程度僕らも彼岸花が咲くひと月くらい前に草刈りをします。そうでないと草に負けてしまって彼岸花が目立たないということになってしまうので。そういう感じでやっています。

福廣さん：ちょっと僕余計なこと言いますが、普通の草刈りするときは、ちょうど彼岸花は地上にないんですね。草刈りで彼岸花を刈ってしまうということはないという意味で、両立するということはあると思いますね。

嘉田知事：一級河川管理者の知事です。(笑) 樹木については色々あるんですけど、草花については住民の皆さんが良ければということで。今日は流域政策局長とそれから野崎さん、直接の担当者が来ていますので。いいですよ、皆さんが楽しんでいただけるなら。野崎室長。課長が判断できなければ局長。(笑)

野崎河川・港湾室長：すいません。河川・港湾室長の野崎です。川は基本的になかなか許可が厳しいという話がありますが、基本的に維持管理でやっていただくのはよしとしています。今回の場合は、ちゃんと草刈りしてもらって、彼岸花、草です。木まで植えていただくと・・・。木は根が堤防の中まで張りますので、その場合は個別にご相談をいただければと思います。(笑)

自分の庭のような草花を植えていただくと、それは個々の家でやってくださいと、そういうのはちょっとまずいですけど。今回のような地域ぐるみで、維持管理の一環としてやっていただくのであれば結構かと思います。

朴さん：アイキッズさんに一つよろしいですか。先ほどアイキッズの皆さんの発表を聞きました。スーパーキッズだと私は思っているんですが。一つ教えてほしいのは、通っている学校は、みんな違いますよね。

アイキッズ：同じ人もいますが、違う学校で集まってみんな活動しています。

朴さん：そうですね。そういう意味で私はスーパーキッズだと言っているんですね。同じ学校でなくても一緒に活動ができるのは素晴らしいということ、子供のとき



からこれだけやっているんだなあということをほめてあげたいなと思っています。

それからもう一つ教えてほしいんですけど、魚は琵琶湖で採れるのは分かりますね。なれ寿司を作るときに、例えばお米もお醤油もいろんなものを、琵琶湖で採れていないものを一緒に混ぜて食べますよね。私は先ほど聞かせてもらったけど、会場で聞いていない人もいるので、もう一度私の方から聞いて、会場みなさんに、アイキッズのみなさんの口からすばらしい答えを聞かせてほしいなと思います。

琵琶湖とどのようにつながっていますか。

アイキッズ：醤油とかなら使っている水が琵琶湖の水だったり、お米ならゆりかご水田で琵琶湖の生き物もたくさんいて、そういうところが琵琶湖とつながっていると思います。

朴さん：100点満点です。ありがとうございます。

福廣さん：続いてどうぞ。

松尾さん：私は、まず子供たちのプレゼンを感心して聞いておりました。大変上手に演出というんですか、すごくすばらしくて。

今、朴先生からのご質問、たぶん彼らがやったのは地産地消という形で、滋賀県の食材で伝統的な食べ物ができるかと一生懸命プレゼンしてくれたと思います。深く感銘しております。今後これをどのように引き続いてやっていくか、後輩たちにどのように引き継いでやっていくかということが、これからの大きな問題点となっていくと思いますので、ご努力をよろしくお願いいたします。講評みたいな形になりました。

また、清流会の方でございますけれども、集積されたゴミなどの処理をどのようにされているのか疑問を持ちましたので、お答えをお願いします。

竜王清流会：それは、全部チップ化しまして、チップ化したものは草が生えないように藪とか堤防にまきました。

松尾さん：私どもは、草が生えないようにチップ材をまくときは、よく竹チップを利用させていただいています。まだ県立大学の先生たちや学生たちといっしょに実験中の段階ですが、竹チップを10センチ程度敷くと、4、5年は草が生えてこないという状況でした。県も一生懸命協力してくれますので、そういうことを利用されたいかなと思います。

竜王清流会：竹チップもすでにすべてまいておりまして、確かに、草が生えてくるのが

本当に遅いです。効果があると思います。

松尾さん：ありがとうございます。

竜王清流会：竹チップはすでにもう終わりました。一番はじめの雑草の時に木を伐採したり、竹を切ってチップ化したんですけど。今は、チップをまいて草刈り機で草刈りをして、その草を束ねて10月の芋焼き大会に利用しています。

福廣さん：いわゆるマルチングですね。マルチプレーでいくというところで。遊磨先生。

遊磨さん：ひとつずつ聞いていっていいですか。

福廣さん：どうぞ。時間をコントロールできてなくてスイマセン。

遊磨さん：まず、竜王清流会様の方にお尋ねしますが、一つ状況を説明してほしいのですが、昔は白砂がきれいな川だったと、それがなんでそうじゃなくなったのかという経緯を説明いただけませんか。

竜王清流会：何十年も前ですけども、僕が小さい時なんですけど、七里川に東映から撮影なんか来たんですわ。馬でね。だいぶ昔の時代劇なんかを子供のころに知っていた。（河床が）高くて、県の砂防で河川を深く掘っていただいて、それからブロックにいただいて、大分その前にこんな大きな木が生えていました。清流会が発足したのは、先ほど言わしていただきましたけれど、平成19年の一般質問で町長に「何してるんや」と議員から質問があって、その時の町長さんの答弁は、知事がそこにおられるんですけど、「県の予算とかいろいろあるもんで」と。その時の山口町長が「みなさんでやってもらえないか」と言われたんです。今も山口前町長が私らの清流会の名誉会長でございます。OBなんですけど。そんな関係でやろうということになって、今日現在に至っています。

遊磨さん：ということは、今は砂が少ない状態が続いているということですか。

竜王清流会：今は、河床が下がっていますので。

遊磨さん：ありがとうございます。わかりました。

次は、アイキッズの方に聞きたいんですけど、漁師さんから魚をもらってきて、さばいたという話だったんですけど、大きな魚もいた。最初に魚をぱっと触ってどんな印象だったんですか。これを料理するんだという時に

アイキッズ：思っていたよりも魚が冷たかったし、ヌルヌルでウロコをとるのも大変だったから、自分で料理したなという達成感があってよかったです。

遊磨さん：直接触るということは一番いいことだと思いますね。

アイキッズ：魚をさわってもすごいヌルヌルやったし、包丁をかまえようとしてもヌルヌルで押さえられなかったし、ちょっとあまりうまくいかなかったです。

遊磨さん：なかなか大変だよな

アイキッズ：内臓とかウロコをとって洗っただけで、それからすぐに塩につけるだけで本当に大丈夫なのかなと思ったんですけど、うまくできてとてもよかったと思います。

遊磨さん：もう完璧な料理人ですね。ありがとうございます。

最後に徳山環境保全会の方にお伺いしたいのですが、話の中で何年か長く続けるとマンネリ化防止ということをおっしゃったのですがどんな工夫をされているかご紹介いただけますでしょうか。

徳山環境保全会：確かにもうマンネリ化だけはしないようということを心掛けてきました。必ず毎回、何か新しいことを取り入れていくようにしました。会員が少ないので、出たアイデアはあかんでもいいのでとにかくやってみる、ということでやりました。

例えば、今の代表が田中さんという方ですが、球根を何とかして集めたいということで思ってたんですけど、男ばかり 11 人が努力してもなかなか集まらないので、一度区民の人に訴えかけようということで、ごみの収集カゴのところに、「球根をよろしくお願ひします。」という大きな箱を引掛けて。すごくカッコいいんですよ。すごく上手な方なので。このぐらいの箱を引掛けました。そんな中でだれか入れてくれないかなと、僕自身は思っていました。それから三日ほどしたら、大きな袋に 4 袋くらい、箱に入らないものですから下に置いといてくださいました。そういうことが何回か続きました。そればかりやってる訳ではないんですが、彼岸花で文字を書いてみようとか、いろんなアイデアをやりました。以上です。

福廣さん：ありがとうございました。

嘉田知事：みなさん川の管理をしていただいているんですけども、ひとつ清流会の方に。女性部が東京（のいい川いい川づくりワークショップ）にずらーっと出て。女性部の力というのを少し具体的に教えていただければありがたいと思います。ナガイさん、いかがですか。

竜王清流会：竜王町はおかげさまで、女性はナガイと男は持たないということで。（笑）

すべてに対して女性なんですね。選挙運動にいたしましても、あるいは竜王町のイベントにいたしましても、先頭に立つのは女性であります。でも、家庭ではやはり主人にもきちっと一歩下がっておるんですけれども。(笑)表に出るのは、一歩一歩出させていただいています。それが竜王町の魅力なんです。ということでございます。これからもがんばります。

嘉田知事：そもそも、竜王の名前が、水の神様「竜王神社」の竜王からですから、水と縁の深いところで。それで、実は先ほど山口町長さんのお話でありましたが、本当に滋賀県は一級河川が多いんです。県管理の河川が508河川、2000キロ。なんでこんなに多いのかということで、野崎室長に調べてもらったんです。結果、河川の長さにおける県管理河川の割合は全国一なんですね。予算は少ないのに。ですからどこへ行っても、「県が管理してくれへん、してくれへん。」と大変困っています。

そしてこの善光寺川ですね。お金は出さんけど、知事は「顔だけ出せ」と言われて行かしてもらいました。みなさんの所、顔はいっぱい出します。お金は出せませんが。(笑) こういう善光寺川のような取り組みをモデルにして、是非県を助けてもらえたらというのが、この今日のメッセージでございます。ありがとうございます。

福廣さん：嘉田知事ならぬ顔知事で行ってもらおう。ありがとうございました。

発表のスペースが少ない、ということなら遠慮なく言ってください。

次は、C-1の巨木と水源の郷を守る会、よろしく願いいたします。

巨木と水源の郷を守る会：こんにちは、巨木と水源の郷を守る会でございます。復活選考でよみがえらせていただきました。トチとともにトチの活動を報告させていただきます。

源流の森とは、どんなところか、なぜ保全しなければならないのかを、この映像史から読み取っていただきたいと思います。映像には、あえて説明はつけていませんが、今年は調査だけでなく、世代間交流、地域間交流にも重点を置いて活動をいたしました。どうぞみなさん、ご覧ください。

(映像による発表)

巨木と水源の郷を守る会：これで終わります。どうもありがとうございました。すみません。少し時間を超過しまして。申し訳ございません。(拍手)

福廣さん：ちょうど終了のお時間を言おうとしたところでした。

それでは、次の発表は、B-4の母なる川・保津川基金さんです。滋賀県以外からご参加の唯一のチームですね。では、保津川基金の方、よろしくお願いします。

母なる川・保津川基金：では、はじめます。よろしくお願いします。

地域で支える母なる川・保津川基金です。こちらは、保津川流域の市民活動を資金面で支援するために、市民の声で設置された市民ファンドです。

今回のプレゼンで説明するポイントは3つあります。1つは、この市民ファンドは市民の声で出来たということです。2つめは、ファンドの元になるお金、寄付集めに関して、地域を巻き込んでいることです。3つめは寄付を使った市民団体を中心に、市民団体のネットワークを作っているということです。

まず、この母なる川・保津川基金が出来た経緯なんですけれども、ここにでています設置申請者の2つの団体と、協力団体の17の団体からの声によって、設置をしたいという事で、立ち上げられた基金です。



この基金に寄付を集めて、その寄付を元に市民活動団体の活動を応援するわけなんですけど、この寄付を特定のだれかが多額のお金を出すという形ではなくて、できるだけ地域の人たちに寄付集めに参加をしてもらうということを大事にしています。

大きく2つ、その特長があるんですけど、1つは寄付付き商品です。箱の上に載っているんですけど、佐々木酒造という日本酒を造っているところに協力してもらって、こちらの日本酒を作ってもらっています。こちらは特別なラベルを使って、1本千円で売られているんですけど、そのうち200円が母なる川・保津川基金に寄付されます。

それ以外にも、昔の保津川の写真をを使った絵葉書を7種類作っていて、保津川は保津川下りで有名なところなんですけれども、保津川下りのあたりにトロッコ列車が

あるんですね。そのトロッコ列車の各駅で、(絵葉書を)販売してもらっています。それ以外に保津町というところで、地域の人たちが協力をして、こうした作品を作って、その売上げの一部を寄付してもらっています。

それ以外に地域のお店だったりとか、地域の公共機関とかに募金箱を置いてもらって、小さなお金をすこしずつ積み上げていくということをしています。実際に集まった寄付が、真ん中に書いてありますが、370,496円の寄付があつまりました。

小さなお金をコツコツと貯めていって、370,496円集まり、そのうち30万円を4つの市民活動団体に助成しております。この助成をする際にも、私たち京都地域創造基金、助成する側が勝手にこうやって使ってもらおうと決めるのではなくて、基金を設置したときの設置申請者であったりとか、協力団体の皆さんと一緒に意見を出し合って、どういった助成金を使いやすいかという声を聴いて、反映しています。そのポイントが2つありまして、助成対象の活動というのが、保津川流域を含む桂川の全流域での活動に助成をするということです。この基金の名前が「母なる川・保津川基金」なので、どうしても保津川だけなのかなということもあるんですけども、「保津川」と言う名前は地域の名前なので、実際は行政区間でいうと桂川全域になるんですね。なので、地域にとって同じ川なんだけど、「保津川」と呼ばれたりとか、桂川・大井川という名前になってしまうというのは、やっぱり活動するにあたって難しいというところがあるので、保津川を含む桂川全流域における活動ということにしました。

あと、助成対象経費に関しても、他の助成金では充当できない活動であったりとか、仲間づくりの経費というところを重視して、助成することにしました。

実際、4つの団体に助成をしたんですが、こちらの団体は海に流れているゴミの問題を、上流の保津川ところから考えていく取組を行っています。

こちらの団体は、川に近づくことが少なくなった子供たちに、川に親しんでもらって、川の面白さや、川の事に興味をもってもらうきっかけをつくるため、カヤックの体験をしてもらう取組です。

あと2つありまして、一つは複数の団体での清掃活動を支援するために、試験的な活動をする団体です。もう一つの団体は、嵐山の渡月橋周辺の保津川の清掃活動を市民300名くらいの方々と一緒になって取り組むという活動です。

いまは、この4つの団体の事業が終わりまして、今後はこの4つの助成先団体と

それ以外の団体の方たちを含めて、ネットワークを作る場をつくろうと思っています。「水端会議」という名前にしたんですけど、助成先の団体であったりとか、同じような活動をしている団体に集まってもらって、課題であったりとか今後やりたいことなどを話し合ってもらって、ネットワークを作る場を作っています。

今は、その「水端会議」の準備と、第2回の助成金をやっていきたいと思っているので、その原資となる寄付を集める活動をしています。

今度は、3月2日に「ほづがわチャリティ・FANRUN」というマラソンのイベントを開催しようと思っけていまして、このマラソンの参加費の一部を、母なる川・保津川基金に寄付してもらって、助成金にしようと思っけています。以上です。

(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。なかなか楽しそうなマラソンですね。

次は、能登川南小学校、B-3、よろしくお願いします。

能登川南小学校：みなさん、こんにちは。これから東近江市立能登川南小学校エコスクールの取組を発表します。

私たち能登川南小学校は「緑を育て、川を守り、地球にやさしくしよう！」をテーマに、環境に関わる活動を続けています。私たち「エコスクール委員会」は、5年生、6年生併せて21名が活動をしています。

これは能登川地区の航空写真です。能登川南小学校は、JR能登川駅の近くにあります。学校の左に映っているのが猪子山で、活動をするのには適した高さの山です。私たちの能登川南小学校は、滋賀県が進めるエコスクール事業に積極的に参加しています。エコスクール活動は、平成15年から始まり、私たち子供が中心になって活動するものです。

「エコスクール支援委員会」という組織があり、私たちの活動を、地域の大人の方たちが支援してくださっています。エコスクール支援委員会のメンバーは、去年のPTA会長さんが委員長で、地域の動物や植物に詳しい方、博物館や埋蔵文化財センターの方々がおられます。また、地域の環境のことを考えてくださっている方や学校の先生が、私たちエコスクール委員会のメンバーです。

それではこれから、能登川南小学校の取組を紹介していきます。聞いてくだ

さい。

まず、猪子山活動についてです。猪子山は学校から歩いて5、6分で行けるところにある里山です。年に2回、6月と11月に行う活動で、6月はペア学年を作って活動しました。上の学年が活動内容やコースを考えて、猪子山に入っていきます。この活動には保護者ボランティアさんも一緒に活動してくださいました。毎年、いろいろな活動を取り入れて学習を進めています。写真のように、聴診器で樹液の流れる音を聞いたり、キノコや植物の名前を教えてもらったりします。知らない名前のもものばかりなので、とても勉強になります。活動を支援してくださっているのが、エコスクール支援委員会の方です。

次の写真も秋の活動で、学年ごとに活動内容が違います。上の段の写真は低学年の子供が活動している様子です。左下の写真は5年生が猪子山から湧き出ている水を調べているところです。5年生は、この活動以外にも山路川調査をしています。川の様子や水生生物の種類から水の汚れ具合を調べています。今回の調査では、希少種であるスナヤツメなども見付き、水がきれいであることがわかりました。



右下の写真は、6年生が古墳の学習をしているところです。ふるさと学習で調べたことは、能登川博物館で展示をして、私たちの学習の成果を多くの方々に見てもらっています。私たち6年生は1年間の学習のまとめとして、能登川博物館で展示をします。少しでも多くの方に私たちの学習のまとめを見ていただきたいと考えています。他の学年も調べたことを模造紙にまとめるなど、学習のまとめをしています。

ところが、私たちが活動している猪子山が、今、大変なことになっているのです。ナラ枯れといってドングリのなる木が枯れ始めてきているのです。そこで、これ以上被害が広がらないように、森林組合の方々が枯れてきている木を切り倒してくださいました。これからもどんどん木が枯れていったらと思うと、とても心配です。これがナラ枯れの原因の一つであるカシノナガキクイムシです。

つづいて、森林再生プロジェクトについて紹介します。この活動は、5月と8月と11月に活動を行います。写真は猪子山活動で採ってきたドングリが、半年後に発芽して成長したところです。私たちは八日市南高校の皆さんと支援委員会の皆さん

んと一緒に、猪子山のふもとに広がる竹やぶを伐採し、グダキやコナラの苗木を植えています。将来、この猪子山が人や動物、小鳥達が集まる雑木林になることを願っています。これらの写真は、猪子山で採ってきたドングリから発芽したものを猪子山に植樹しているところです。上の写真は、5、6年生が八日市南高校の先生から、竹の切り方などのお話を聞いているところです。右の写真は竹林に生えていた木を切り出しているところです。狭い竹林の中での活動なのでとても大変でした。秋には5年生が以前造っていた竹垣の修復とその続きで、新たな竹垣を作りました。

そしてドラム缶を使って窯を作り、竹炭作りをしたこともありました。主に支援委員会の方が中心となり、活動をしてくださいました。できた竹炭は消臭効果があるという事で、学校のトイレに吊るしています。また、水槽に入れて水の浄化に役立っています。風力と太陽光で発電し、鉛筆削りを動かして全校のみんなが鉛筆を削っています。

次に5年生の山路川の調査です。猪子山のすそを流れる山路川では、ハリヨやスナヤツメなど珍しい魚が見つかります。水生生物を調べたり、パックテストを使って水の汚れ具合を調べています。

次に私たちエコスクール委員会の日常の活動を紹介します。私たちは「水グループ」「ゴミグループ」「電気グループ」の3つのグループに分かれて活動しています。

「水グループ」は水の出しっぱなしをしないように、全校に呼びかけたり、水質調査をしています。また暑い夏場は、雨水タンクの水を使って水やりをしています。

「電気グループ」は教室や特別教室の電気のつけっぱなしをチェックし、消しまわったりしています。また自転車発電の実演もしています。これらの活動を通して、水の出しっぱなしや電気の消し忘れなどは減ってきました。

また、毎週金曜日をストックハウスの日として、教室からでるごみの回収をしています。毎回ごみの重さを図り、ごみの減量に心がけています。

ここ数年は新たな取組として、EM菌をつかったプール掃除を行いました。4月に全校にEM菌の培養を呼びかけました。そうすると、全校のたくさんの方が培養に協力してくれました。ペットボトルにEM菌と糖蜜を入れ、その中に米のとぎ汁を入れ、2週間培養しました。これらの写真はEM菌を入れているところです。

次の写真はプール掃除です。1か月後のプール掃除では、プールのヘドロやぬめりが減り、安全に、しかも短時間で掃除ができました。また、EM菌は水を浄化す

る働きがあり、水をそのまま流しても、川を汚すことはありません。今後も続けていきたい活動です。

二つ目は、ゴーヤのカーテンづくりです。写真はゴーヤが発芽してしばらくたった時のものです。学校だけでなく、PTAにも呼びかけて、地域でもゴーヤを栽培してもらうことにしました。たくさん家から協力の声があがり、家庭を巻き込んだ取組となりました。写真のようにポットに入れて、家に持って帰ってもらいました。

今日紹介した活動は今後も続けていき、全校のみんなに広め、一人一人のエコへの意識を高めていきたいと考えています。

これで、能登川南小学校エコスクールの発表を終わります。私たちの発表を最後まで聞いていただき、ありがとうございました。（拍手）

福廣さん：ありがとうございました。ちょっと時間オーバーしたんですけど、今日は何人ですか？

能登川南小学校：14人です。

福廣さん：14人。14人やったらしょうがないな。（笑）ということで、発表時間のオーバーをみなさんご容赦ください。ありがとう、14人のみなさん。

なんでもやってはりますね。えー、次は・・・、これで3つか？

すんません。これで3つになりました。3つずつのスタイルがよかったかどうかは終わってからの話ですけど。（笑）

ちょっと、片寄先生から。

片寄さん：能登川南小学校のみなさんにお尋ねしたいんですけど、3つのグループがありますね。水グループ、電気グループ、ごみグループ。

どれが一番人気があるとかそういうのありますか。（笑）普通に聞くとごみグループはえっーて感じなんですけど。そのあたり、どうやってグループに分かれたのかも含めて。誰か答えてくれる。

能登川南小学校：だいたい3つのグループに分かれたくらいです。どれが人気とかはあまり差がない感じです。

片寄さん：希望して？ 抽選とかそういうのではなくて。

能登川南小学校：自分が行きたいところで分かれました。

片寄さん：お、えらい。ごみのグループ手挙げて。おっー。拍手しましょう。

福廣さん：代表の方に前に出てきてもらうの忘れてたんですけど。14人ばかりから忘れたわけではないんですけど。能登川南小学校の方どなたか一人残して、B-4とC-1の代表の方、ちょっと前でお返事してただけるようによろしくお願ひします。

とちの木の方と、保津川基金。とちの木と言ったらあかんのですね。かつらの木って言ってましたね。

巨木と水源の郷を守る会：巨木。

福廣さん：巨木ですか。すいません。

引き続きまして、みなさん、全体選考でご質問、ご意見等いただきましたらと思います。どうぞご遠慮なく。

朴さん：私の方から、巨木と水源の郷を守る会さんに、一つちょっと教えていただきたいなと思います。

確か私の記憶では、昨年グランプリだったのではないかなと思います。普通、グランプリをとったら、はい終わったと思うのかなと思ったんですけど、またチャレンジしていただいて、すごいなと思いました。

教えていただきたいのは、結構急斜面みたいなのところとかあって、たぶんちゃんと考えて、初級レベルとそれからある程度のレベルとあると思うのですが、どういう風に考えてやってらっしゃるのか、ノウハウを教えていただければと思います。

巨木と水源の郷を守る会：やはり、急斜面と言いますか、V字の大変なところは、そこに行ける方を中心に行っております。ただ、季節としても夏だったら、少し最初に講習会なりアドバイスを受ければ誰でも、ここは里山ですので、昔ここで作業しておられた方々がどなたでも行かれたところです。すぐそばに炭焼き場の跡もありますので。最後危険なところの詰めはいかないで、その手前で見ていただくとか、そういう工夫はしています。

それから小さな子供たちが映っていましたように、映像では若干すごいところに映ったかと思いますが、比較的簡単に行けるところもありますので、そういうところはできるだけみなさんに広く知ってもらいたいということで、観察会なりをしています。それぞれの力量は見極めながら、できるだけ多くの方が参加できるような体制を組んでいます。

朴さん：ありがとうございました。みなさん、すばらしく美男美女に写っていましたが、嘉田知事があれだけきれいな方だというのが初めて分かりました。（笑）これからもいろいろ応援をしてください。ありがとうございました。

福廣さん：松尾さん。

松尾さん：失礼します。保津川の母なる川ということで、この市民ファンドについて、私も大変興味を持っています。

行政から、常に助成金は全く出てこなくなってきました、県が出なかったら市も出さないという、本当に厳しい状況になってしまっています。我々の活動にしましても、会員の会費だけでは少し減っておりまして、この市民ファンドの地域の方から集められて、17 団体ですか、集められていらっしゃるところに、どういう仕組みをもって、その団体を集めてこられたのか、少しお聞きしたいなと思います。

母なる川・保津川基金：はい。17 団体が協力しているというのは、寄付集めに関して協力しているんですけど、実際、寄付をだしているというわけではないんです。会費制度とかではないので、その 17 団体と、設置申請者の NPO 法人プロジェクト保津川とカップ研究会、プラス 17 団体が「基金が必要だよな」ということで、基金を立ち上げたいと京都地域創造基金に申請をされて、京都地域創造基金の中に、「母なる川・保津川基金」をつくったと。

で、京都地域創造基金と、NPO 法人プロジェクト保津川とカップ研究会とで、基金を運営しているということになるんです。

寄付者の方は、地域の方や市民の方、企業の方とか様々な方ですね。

松尾さん：それでブランド食品っていうんですか。こたけをはじめいろいろなものを開発されて、その収益をファンドにほり込んでいるという解釈でよろしいのでしょうか。

母なる川・保津川基金：寄付付き商品からの寄付もありますし、一般的な個人の方からの寄付もありますし、企業の方からの寄付もありますし、募金活動をした募金が基金で集まることもあります。

松尾さん：ありがとうございます。

遊磨さん：また一つ、能登川南小学校の方にお尋ねしたいんですが。猪子山や、山路川やいろいろ活動されているんですが、なんか怖い思いをしたことはないですか。山とか川に入っていて。

能登川南小学校：特にありません。

遊磨さん：強いんだね、みんな。(笑) ありがとうございます。

次は保津川基金の方にお伺いしたいんですが、言いにくいかもしれませんが、充当しにくい経費にあてるといふ表現があったんですが、例えばどういうものなんですかね。ここにファンド関係の方は受ける方も出す方もいっぱいいるので、かなり文句を言っていただいたらいいかなと。

母なる川・保津川基金：そうですね。出たのは、母なる川・保津川基金での活動、助成先団体になりそうな団体として、川の清掃とかをする団体が想定されてたんですけど、川にまつわる活動をするときって、日中の活動が多いので、例えば、お昼をはさんで、お昼ご飯とかどうなのかなというのが結構あったんですね。でも、お昼ご飯は他の助成金では出しにくいということもありますし、そういうのがまず挙げられました。

後は、ノボリだったりTシャツ代とかも使いたいというところもありますね。実際、ペットボトルを参加者に出したいので、ペットボトル代として使いたいという団体もあります。

遊磨さん：ありがとうございます。ファンディングのソースの方々は参考にさせていただければと思います。

じゃあ、巨木と水源の郷を守る会の方にお伺いしたいのですが、映像だけで説明がほとんどなかったのであえて聞きたいのですが。

最後に鹿の害の話がちらっと出てきて、やはり若木がないということが非常に問題じゃないかなと思うのですが、今後の方針ですね。

若木も含めた、森の更新計画というか、若返らせていくというのに、どういう計画をお立てになっておられるのか、お願いします。



巨木と水源の郷を守る会：まず、この巨木の母樹のトチの実をとりまして、それを我々が発芽させました。そして、その発芽したトチ苗を、鹿害のない高島市新旭の針江の圃場でまず3年間育ててみようと。そして、3年間育てたその苗を、母樹のもとに植えなおすという作業を考えています。

ただ、3年でこのぐらいの成長しかしませんので、それでもやはり、たぶん鹿害

は受けると思います。ですから、鹿害から守るために、柵をして、そして網をして、何年間か見守っていかなければいけないと思うのですが、この地域は2m、3mの豪雪地帯で、その斜面に植えますので、その柵が相当に丈夫なものでなければ、雪の重みで壊れてしまうと思っています。ですから、相当頑丈なものをつくりたい。そこにお金がかかるので、私たちはできるだけ貯金をしていきたいなと思うんです。ただ、それでもどこまで雪にもつかというのは、正直これからの問題です。専門家のご指導も受けてやっています。

遊磨さん：ありがとうございます。鹿もなかなか大変だと思うのですが、苗木の方も雪対策がかなり大変だと思います。ありがとうございます。

福廣さん：時間が来ましたのですいません。聞きたかった、針江との、下流との交流を聞かせてもらいました。ありがとうございました。

次のチームの選考に移りたいと思います。どうもありがとうございました。

では、A-3の山内エコクラブ、よろしくお願いします。

山内エコクラブ：「あかいいでたるところは、こうがじゅつやまにすまいたす、はびとくらのひゃくしょうでござる、きょうもたの、いまをとのず、まーず、そろりそろりとまよお」

これは、今度3月に上松で行うコンサートでの地域の人に教えてもらった水争いをテーマにした狂言です。では本番に移ります。(笑)



川と海、水をつなぐ交流の輪。山内エコクラブ。今から、昨年の夏に行った山内と沖縄県糸満市米須地区との交流の発表をします。

私たち山内エコクラブは、私たちの住む山内のいいところ探しをして、それをいろいろな人に発信しています。今回沖縄の糸満市米須地区からのお誘いがあり、行き来をすることになりました。

実はこれは、平成21年に東京であったいい川いい川づくりワークショップでの、山内エコクラブが参加した時の出会いが交流のきっかけとなりました。

村まるごと生活博物館です。これは、地域を屋根のない博物館と見立てて、博物館である自分たちが住んでいる地域の案内人を、私たちやお年寄りの方がしました。

この方法は米須地区では既に取り組んでおられました。また、7月には米須から6名のお友達と大人4名の方が山内に来てくれました。また、永源寺の山上からも10名、そして地元の山内の友達と30名が集まりました。

「私たちの地域が自慢できることは」と考えて、普段やっているお年寄りの方からお話を聞くことを、グループに分かれて行いました。山内の川にいる生き物、山の仕事、農業、山内にいるシカや猿の話、井戸を使った水のやりとりのことを聞きました。盛り上がったのは、昔は、水洗トイレが無かったことや牛を家で飼っていたこと、また、昔は食べることは命をいただくことであることなどを一緒に教えてもらいました。これをグループごとにまとめました。

僕たちの住む山内は、野洲川の上流なので、川遊び、そして田んぼでの生き物観察やどろんこサッカーをしました。僕たちは琵琶湖に注ぐ野洲川の上流でカワゲラの幼虫や沢ガニ、ヘビトンボがいるきれいな水質であること、山内には龍神をまつる水文化があることを説明しました。川のない米須に住む友達は、川での遊びをとっても喜んでくれました。4日間の間には、夕涼みコンサートをして地域の人と一緒に歓迎会をしたり、杉の木での木工体験などで交流をしましたが、地域のおばちゃんの田舎料理など、たくさんの方にお世話になりました。その御礼に山内のお店3軒で使えるプレミアム商品券をお渡ししました。また、琵琶湖でプランクトン観察をして、近畿の水瓶をこぶしの子達に見てもらいました。

8月には、私たちが沖縄に4日間行きました。空港から熱烈な歓迎を受けました。米須村丸ごと生活博物館に取り組んでおられる米須では、子ども達が地域のいいところ自慢をしてくれ、地域博物館の学芸員になってくれました。沖縄の太陽はきらきらとしていて、ハイビスカス、サトウキビ畑、大綱引き、エイサー体験、そしてなんと言っても美しい海は印象的でした。でも、観光やレジャー産業によって珊瑚などが死んでしまっていることも教えてもらいました。また、川や山がないために、農作物の水の確保の地下ダムを造っておられることを聞きました。そして沖縄では、戦争の時には海が血に染まったとまで言われ、戦争体験から「又チドゥ宝」命は宝、平和への祈りと、川の少ない沖縄では川と呼ばれる湧き水の場所に珊瑚をお供えして、お祈りされていることを知りました。私たちは、この交流を通じて、その土地での考え方にはその歴史や暮らしがあること、水は友達作りができること、きれいな川や海で遊べることは幸せなこと、海も川も人間の手で美しくも汚くもなるこ

と、時には血に染まってしまうことも教えてもらいました。

米須の子ども達に私たちの住む山内の川の美しさ、景色の美しさ、ご飯のおいしさのいいところを言ってもらったので、これからも私たちの身近にある川に親しめるように、素足で川に入って流れを確かめたり、冷たさを感じられる遊びや活動をしたり、いろいろな川に行ってみて交流したいと思います。

これで山内エコクラブの発表を終わります。(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。時には水辺が血に染まることもある。すごいですねえ。ありがとう。とりあえず一旦これでおしまいです。

次、A-2の愛知川塾の方、よろしくお願いします。

愛知川塾：愛知川塾の辻と申します。よろしくお願いします。愛知川塾の事業につきまして説明させていただきます。

まず、愛知川塾とは、愛知川は東近江を代表する河川になっていますけども、今では、人のいない川になってしまっています。私たち子どもの時の思い出は、やはり野や川で遊んだことが一番頭に残っています。そこで、愛知川が再びみんなの思い出の場所になることを願って、有志による啓発活動をしている団体です。現在メンバーは18名、平成20年度から頑張ってやっております。



愛知川塾の主な活動の概況ですが、1つは愛知川勉強会の開催、愛知川の石から生い立ちを学習しました。また、愛知川のイワナの特性について、勉強会等を5回開催させていただいております。2番目は愛知川移動水族館の開催、愛知川の自然についてのPR活動。3つめは愛知川の小鮎の天ぷら等の試食直売会、愛知川の恵みのPRをやっております。それから、愛知川河川内の小木の伐採、愛知川の景観を守り、また、防災のための活動ということに位置づけております。5つめは愛知川の情報発信、インターネットブログ「愛知川大好き」というブログで、2008年6月から代表者によりまして、愛知川の清流の状況等を克明にブログに載せさせてもらっています。それでは5つの事業について詳しく内容を説明したいと思います。

まず愛知川を知ることによって、親しみや関心を高めてもらおうということで、まず勉強会の内容ですが、「愛知川水系の地下水とトンボ達」ということで、宇曾川水系の見守る会の代表、とんぼ研究家の澤田弘行先生に来ていただきました。また、生態系のバランスから見た琵琶湖ということで、琵琶湖科学研究センターの西野麻知子先生に来ていただきました。3回目は川と湖の回遊魚ビワマスの謎を探るということで、滋賀県水産試験場長さんでありました藤岡康弘先生、4回目は愛知川の岩石の生い立ちと化石についてということで、鉱物科学研究家の磯部敏雄先生の指導のもと、石を集めて勉強をしました。5回目は愛知川のイワナの特性と県内の分布につきまして、滋賀県水産試験場の技師でありました亀甲武志先生にも来ていただきました。

2つめは愛知川移動水族館ということで、子ども達に愛知川を知っていただくということで、愛知川沿いの五個荘小学校、能登川東小学校、能登川北小学校、愛東南小学校、山上小学校へ、愛知川河川でつかみました20種類の魚を、移動水族館として展示させていただきました。また、能登川駅には愛知川でつかんだ若鮎を展示して、大変乗降客から注目を集めました。

3つめの小鮎の天ぷら等の試食会ですが、地元のイベントに、五個荘ふれあい広場とか八日市の清水町・小脇子供会の魚つかみ等で、鮎の天ぷらを試食していただいて愛知川をPRしております。同時に、愛知川移動水族館を展示して子ども達に魚たちを見てもらっております。

4つめの事業ですが、河川内の小木の伐採ということで、御河辺橋近辺から八千代橋にかけて大変木が繁っております。一昨年から河川内の大きな木は、県と国で相当なお金をつぎ込んでいただいて整備はしていただいたのですが、嘉田知事さんの仰る「もったいない」県政の財政負担を軽減するためには、小さいうちに処理しなくてはならないということで、私たち人力で、出来る範囲内のことで早い目に河川整備をすることが、また、河川に関心を持ってもらうことが、水害や災害の安心安全につながるのではないかとということで、広く呼びかけて頑張っています。

5つめのブログの発信ですが、先ほども言いましたように「愛知川だあ〜いすき」ということで、愛知川の川の流れの状況、鮎を釣っておられる方の状況等を克明に、代表者の村山さんがブログに発信していただいております。

今後の活動計画ですけど、東近江市内の各地のイベントに参加しまして愛知川塾

の積極的な活動をPRしていきたいと思っています。ただ、愛知川移動水族館は各学校とも子ども達の魚に対する関心が大変好評でございまして、これは積極的に継続事業として取り組みたいと思っておりますし、福祉施設のボケ防止にも相当役立つということで、展示した時には相当な反響をいただきました。愛知川に関心を持たれる方は多くありますので、親子で事業に参加していただくことを今後は考えていきたいと思っております。

愛知川の景観を守るボランティア作業はメディアを通じ会員募集をして、今後も財政削減のためにも、安全確保のためにも頑張っていきたいと思っております。それから、インターネットブログ「愛知川だあ〜いすき」につきましては、時間がありましたら皆さまアクセスしていただいて愛知川の状況を常に見ていただいて関心を高めていただきたいと思います。以上です。(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。子ども達に「時間OK」と言ってるのに、年長さんにも「OK」と言ってしまいました。最後あと1つです。皆さんもう一つだけ頑張ってお付き合いください。

A-1の勝部自治会の皆さん、よろしくお願いします。

勝部自治会：JR守山駅前の便利な所に位置するにも関わらず、街中を川や水路が縦横に走り、悠久の歴史とともに市内で2番目という大きな地域勝部4,300人の生活に潤いと安らぎを与えてくれています。

この1月12日に行われました勝部の火祭りは、これらの川や水路とともに長い歴史を今に伝えています。今日は地域の川を守り流れを造りながら生活、親水、防災、そして800年の歴史とともに当自治会が歩んできた活動についてお話させていただきます。

今宿川・赤目川・大川沿いの畑では、営農クラブを中心に、執行部も協力し、もりの風こども園・守山保育園・守山幼稚園の園児たちとさつまいもづくりに取り組んでいます。守山保育園とは、会館前庭のやすらぎの池前で焼き芋を楽しみながら、老人クラブの皆さんが交流を続けています。

グレーチングを施した赤目川の田んぼでは、5月から10月は5年生の米づくり、11月から4月までは3年生・4年生が菜種づくりに取り組んでいます。この菜種

は4月になると見事な菜の花畑になり、お花見の園児たちが後を絶ちません。花見の使命を終えると、4年生は刈り取りや種もみを体験いたします。松明組やOB会も加わり、火祭りのための、種がらの準備に入ります。種がらは、火祭り当日の早朝、戸板を使って満水にした立花川沿い楓三道で取り付けられます。子どもたちの体験学習は、直径4m、長さ6mの大松明の800年の歴史を支える一助となります。

「親水」。春、たちばな川・やすらぎの池の川面に桜の花びらが舞い落ち、ピンクのじゅうたんのようになります。新1年生を祝う会・子育てサロン、それから高齢者いこい会が水辺に集います。ウオークラリーもしています。守山小学校の1年生・2年生も生活科の学習で訪れます。魚や水辺の生き物がお目当てです。

「夏」。今宿川、かつべほたる北の道では、ほたるパーク&ウォークで、ペットボトルの夢灯（ゆめあかし）を、中水川、かつべほたる南の道では、昨年発表させていただきました水フェスタを、たちばな川・楓三道では、パレードや中学生やボランティアによるペットボトル灯籠の準備など、夏祭りを盛り上げます。

「秋」。子育てサロンでは立花川の魚やトウカエデの木々を眺めながら、勝部神社まで出かけます。会館では、作品展・模擬店・野菜の即売等、文化祭も開催しています。冬の夜、やすらぎの池・たちばな川・会館前庭をイルミネーションで彩ります。火祭りもあります。



防災の活動では、月1回の定例訓練をたちばな川・赤目川を中心に行い、たちばな川・荒堀川・中津川では、戸板で川の水を溜めて軽可搬ポンプで放水訓練を、赤目川・楓三道・勝部神社では、消火栓を使っての消火訓練を行っています。

地域別訓練では、大人も子どもも並んで、バケツリレーもします。義勇消防隊の協力で、小型動力ポンプでの放水訓練もあります。勝部神社本殿は国の重要文化財でもあるので、境内の防火水槽を使っての消火訓練も欠かせません。

河川および水路の水は、石部の頭首工からいただいておりますが、季節や場所により川の水量は一定でないため、揚水ポンプや町内24箇所に設置してある防災用戸

板を利用し、必要に応じて水量を調節する必要があります。定期的に揚水ポンプ付近の清掃、戸板・水深計・戸板はめ込みゲートの確認をします。

防災だけではなく、魚など、水辺の生き物の住みかを確保し、激減したほたるを取り戻し、水辺の空間を維持するためには、戸板はなくてはならない大切な道具なので、義勇消防隊や婦人消防隊が点検を行います。大きな災害に備えて、年1回、やすらぎの池の水質検査をして親池のポンプも非常時には使えるように準備しています。

親水・防災・火祭りの伝統を次世代に繋ぐためには、それぞれの川や水路の環境づくりが欠かせません。地域全体では夏と冬の2回、美化運動をはじめ、中心となる団体が決められた回数を、それぞれの川や水路、川沿いの道で行います。

最後に、800年の伝統を繋ぐために、小学生の松明体験、引き松明を利用したストラップづくり、干支松明うろこの製作、大学生による手作り紙芝居など、時代に合わせた活動にも取り組んでいます。

終わります。(拍手)

福廣さん: ありがとうございます。3時30分の休憩予定時間に食い込みますけど、質疑をお願いします。

A-1、A-2、A-3の代表の方、前に出てきてください。

時間がおしいので、どなたからでもご質問なりご意見をお願いします。

朴さん: 一つだけ教えてください。山内エコクラブの皆さんに質問したいと思うのですが、東京の発表でもいろいろやっていて、本当に多岐にわたった、このエコクラブの素晴らしいところは、「老人力」と「子ども力」が一緒にマッチングしていくところだと思うのですが、今日のお話を聞きますと、地域で頑張っていて、また、海を渡って沖縄の友達との交流を進めておられる。つまり、ローカルのなところからグローバル的なところ、また、グローバル的なところからローカルのなところ、「グローバル」という、私たちが理想的に考えている活動をやっておられると思うのですが、沖縄に行って、皆さんは素晴らしい川との関係には親しみを感じておられるけど、海は多分初めてかもしれませんが、どういう風に思いましたか。それだけ教えてもらえますか。

山内エコクラブ: 時々、他の海に行ったことがあるけど、沖縄の海はきれいだったので、

よかったなと思いました。

朴さん：すごいな、と思ったのは、珊瑚礁やきれいな海を守るのは大変だなということ
とをさっき言ったよね。そういうことは感じましたか。

山内エコクラブ：感じました。

朴さん：そしたら、川で皆さんがやってきたことは、海の保全にも役に立つと思いま
したか。ちょっと対象は違うけど、身近にあるものを大切に思いましたか。

山内エコクラブ：思いました。

朴さん：これからもずっと（活動を）やっていきますか。もうたくさんですか。

山内エコクラブ：やっていきたいなと思います。

朴さん：そしたら、嘉田知事によろしくお願ひしましょう。（笑）以上です。よろしく
お願ひいたします。

福廣さん：朝は、雨乞いの話、海も山も一緒だと言われていました。

松尾さん：順番に聞かせていただきます。勝部自治会さんは、いろいろなこと、防災・
親水・伝統を繋ぐなど、大変バラエティーに富んだ活動を自治会でやってらっしゃ
いますので、私もびっくりいたしました。特に、伝統、800年続いた火祭りにつ
いては、どのように思っらっしゃいますか。

勝部自治会：私は勝部に生まれて育った訳ではないので、本当はここに一緒に来ている
まちづくり委員長がずっと、勝部に育っているから、そちらから聞いた方が良かった
のかもしれないのですが、子どもを「松明組」、火祭りを支える中学生から33
歳、34歳くらいまでの子どもたちを含む組なんですけれども、やっぱり、地域か
ら出て行く子どもたちが多くなってきたので、松明は1年をかけて準備しないとで
きないお祭りなので、今、松明組さんたちは、非常に人員を集めるのに苦慮してい
ます。それと、材料、昔はいらなくなった物を使っていたのに、それが今では作ら
ないといけないということで、菜種を作るのもとっても大変、ということもありま
したので、それにはやっぱり手を貸したいな、という思いはありました。続けて欲
しいと思っています。

松尾さん：ありがとうございます。お祭りというのはどこでも、大津祭りにいたしま
しても、彦根には特別な祭りはないのですけれども、長浜祭りなどにしましても、
やはり、神社・仏閣の祭りは、「気」、元気の気です、「気」があって、「心」があっ
て、「精神」、この3点がマッチしている、融合しているために続いていると、まち

づくりに携わる者として感じます。まちづくりにおいて、イベントというのは、どうしても3つのうちのどこか一つに弱いところがあると、私は解釈しております。私は、伝統というものはそういうものに引き継がれているものだとして解釈しています。以上でございます。

福廣さん：今、言われた3点を、もう一度お願いします。

松尾さん：「気」、元気の「気」ですね。勝部の自治会にはなんか「気」があるんですよね。神社仏閣の祭りにしましても。その「気」と、「心」、「精神」。以上3点です。

福廣さん：ありがとうございました。一つだけ勝部自治会さんにお伺いしたいのですが、先ほど、「戸板」と何度かおっしゃっていたのは、家の中の戸板を使われるのですか。

勝部自治会：昔みたいな、大きな、人を担いだような戸板ではなくて、細い、川の堰を作るための、防災用の戸板です。

福廣さん：堰板ですね。わかりました。ありがとうございます。

遊磨さん：愛知川塾の方にお伺いします。愛知川で採れたコアユの天ぷらをイベントで出されたということですが、それは愛知川のアユだからということで好評だったのでしょうか。

愛知川塾：私らは、愛知川で投網でつかむのですが、どうしても引き揚げるときに砂を噛んだりしますので、販売するのは、魚の間屋さんで買った安全なコアユでないと、「天ぷらを食べて歯が折れた」と言われたら困りますので。(笑) 本来なら、財源確保のためにつかんだものを販売するのが一番ですけど、高いアユを買ってきて。(笑)、琵琶湖産には変わらないのですが、対応させてもらっています。

遊磨さん：願わくば、石を噛んだりするという実態も知っていただいた上で、生き物をおいしくいただくのがいいんじゃないかなと思ったのですが、僕も歯が折れると困りますので。(笑) ありがとうございました。

福廣さん：石を噛むようなお話ですね。(笑)

片寄さん：3つの会にお尋ねしたいのですが、結構、支出、お金が出て行っている気がするのですが、どこからそのお金を捻出されたか、という込み入った話を。(笑)

勝部自治会：勝部の自治会は、自治会費というものの中から出させていただいています。年間予算が2,800万円ほどあります。(会場：驚) そのうちの半分いかないくらい、

1,300 万くらいが自治会費と、町内にある会社からの協力金でいただいているものがありますので、それで。あと残りは、市の方にいろいろ協力をさせていただいておりますので、そちらから環境に対する協力金とか、いただいております。多少の蓄えもありますので、資金面においては、今のところ、あまり心配はしていません。皆さんのボランティアをして欲しいなど、それは無償でいただいておりますので、お茶程度しか出ません。

山内エコクラブ：国の移住交流地域活性化支援事業というのがありまして、そこに、村まるごと生活博物館のこの事業がありまして、国からお金を出していただきました。

福廣さん：すぐに言えるって、すごい。(笑)

愛知川塾：愛知川塾の財源は、先ほどもパネルでありましたように、コアユの天ぷら(笑)を10キロ、だいたい1キロで1,000円ですので、10キロを天ぷらにしますと4万円くらいで売れます。1皿10匹から15匹くらい入っておりまして、300円で売っておりますので、150皿ほど売れまして4万5,000円。その差額の3万円ぐらいの活動で、頑張っております。

福廣さん：ありがとうございました。

それでは、3時30分の予定を10分遅らせてしまいましたので、この部はここで閉じさせていただいて、5分間休憩のとさせていただきます。45分に再開します。

【休憩】

福廣さん：では、再開します。

全体選考の3人さんとコメンテーターのお2人さん、僕もということで、事務局からは、それぞれ1人3票入れろというご指示をいただいております。それでは、一気に「良かった」と思う団体のパネルに、似顔絵のついた付箋を貼って下さい。

1つの団体に2票入れるというのはやめよう、ということで、取りあえず、バラバラに3票入れてください。よろしくお願いします。



<投票中>

福廣さん：みなさん、入れましたね。事務局、票を数えていただけますかね。トータルで3票×6人で18票。

集計結果 A-1（勝部自治会）が4票、A-2（愛知川塾）が1票、A-3（山内エコクラブ）が2票、B-3（東近江市立能登川南小学校）が0票、B-4（公益財団法人 京都地域創造基金）が1票、C-1（巨木と水源の郷をまもる会）が2票、C-2（竜王清流会）が0票、C-3（アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～）が5票、C-4（徳山環境保全会）が3票

福廣さん：C-3のアイキッズが5票。勝部自治会、4票。徳山環境保全会、3票。これ、いくつ選ぶんでしたっけ。グランプリと準グランプリということなんですが、なんか最近ではグランプリ2つとかなってますけど、実行委員長、どうしますか。

福廣さん：できたら、（グランプリと準グランプリ）1こ1こですけども。でも、どうなるか分からない。

福廣さん：できたら1こ1こ。5，4，3で簡単に決まると思ったらあかんわな。そしたら、どうしましょうかね。全部議論していると全然時間がないので。とりあえず、全体選考委員の方から、入れられたとこの、何故入れたのかコメントをお願いできますかね。遊磨さんからお願いします。

遊磨さん：ということは、長くしゃべったらあかんということで。

僕は勝部自治会にまず入れました。水を制御するというのをちゃんとやっておられる、唯一の団体だったというので。これはすばらしい。それをしっかりされているということで、僕はちょっと感激しました。「川づくり」フォーラムと言いながら、川のことを、ほとんどまともには誰も物理的にいじっていないのに、水を制御しているのがすごいなと思いました。

それから、もう1つ入れたのが、アイキッズです。これは違う小学校の子ども達も、同じ地域だけでも違う小学校の子ども達と一緒にやっている。聞く所によると、中学生になったらみんな一緒になると、同じ学校になるということで、将来のたて作りをしているなということで、素晴らしいと思います。

もう1つ入れたのが徳山環境保全会なんですが、ここは地域の方、水も川の事を通してだと思っんですが、地域の方々が非常に仲良くなったというすばらしい事例ではないかなと思いました。ということで、この3票を入れさせていただきました。

ありがとうございます。

松尾さん：私も3票ということで、一番最初にやはり印象の強かったということで、アイキッズに入れました。これはやはり、活動自身も非常に惹かれるところがたくさんありまして、どうしても一票入れたいなということで。

次に、勝部自治会に入れさせていただきました。これは、活動がたいへんバラエティに富んでやっていらっしゃる。確かに予算もたくさんついておる所も気になったところですが。(笑) やはりこれだけの自治会を動かすというパワーに少し魅力を感じた次第です。

3番目、私は、特に映像で動かされたと思っていますが、巨木と水源の郷を守る会。これは大変うまく出来ていたと思います。私も滋賀県の最北端にある栃ノ木峠のトチノキを、最初に見たときはびっくりして。この山おやじのトチノキの生態をよくここまで表現されていたということで、3票目を入れさせていただきました。

以上です。

朴さん：私は、まずアイキッズさんに1票入れました。全体選考員3人全員入っていますが、「母なる琵琶湖」というのが子ども達の伝統的な食文化ということが、きちっと分かっているんだということが素晴らしいということで、文句なしにアイキッズに入れました。

それからもう1票は、勝部自治会なんですけども、あれだけ大きな町で、資金の多さにもびっくりしたんですが、それをきちんと800年の歴史を持っている火祭り、防災、つまり川づくりとか水との関わりが一見関係なさそうに思うけれども、一番関係している「命を守る」という所まで考えて、川づくりは勿論のこと、これだけ多岐にわたっているものをシスマティックにやっていく。この力は、自治会のモデルになるんじゃないかなと思って入れました。

それから、もう1つが山内エコクラブなんですけれども、自分の山あり、川ありというところから、海を越えていくところ、しかも小学生か中学生だと思うんですが、あれだけ自分たちがどこから出てくるお金で活動するのか、かっちり分かってやっているという、この将来性に1票。(笑)

片寄さん：私は、アイキッズの魚料理に感動しました。やはり、川づくり、自然環境保全の活動をしているとどうやって食べるかというのが非常に大事ななと思って。子ども達が魚をさばいた、フナ寿司がおいしいって本当か？(笑) 本当においしい

と思ったのかなあと。もし本当においしく感じたんなら、これは将来恐ろしい奴だなと思いましたけども。(笑) 料理をやるのは非常に大事なことだと思います。

それから、曼珠沙華の徳山環境保全会。曼珠沙華を食べるというのは、なかなか難しいかもしれないけれども、花を愛でながら、そこに通いながらそこで食べるという、あのイベントが非常に印象深くて、自然の豊かさを感じさせる運動というのは長続きするんだなと思いました。

そして、愛知川塾を入れさせていただきましたのは、やっぱり、小鮎の天ぷらが愛知川で獲れたのではなかった聞いた瞬間に、おっ、これだと。(笑) 食べる物をテーマにすると本質が見えるなと。

今回は敬意を表するというので3つを選ばさせていただきました。

嘉田知事：5人で5票ということなので、私もアイキッズに入れさせていただきました。食べるということが命をつなぐんだということ、実感の中から言葉を、そしてその感覚を表現してもらって、「これだ」ということでアイキッズ。そのうち、フナ寿司をたしなんで、20年後に皆さんが飲み仲間になっておられたら嬉しいなと思います。(笑)

2点目ですね、これまでの住民活動はお金を得ることに一生懸命だった。これはこれで大事なんですが、保津川基金さんは、どうやったら自分たちがお金を配るかということをやられた。これは、主体性が逆転する新しい活動だと思います。実は、滋賀県でも今、みんなで基金を募って、それを広げていこうという動きもあるんですけども、ちょっと先を越されたなと。山田知事のところで憎らしいんだけど。(笑) 先を越されたからここは1票ということ。ちなみに、主でやっている鈴木さんという方は京都府の職員さんで、20年来水の研究をして、最近ドクターをとられたという。こういう職員さんが、京都府にいるというのもいいなということ、敬意をもって1票です。

それから、勝部自治会さんですね。この地図を見ていただくと、守山駅のしかも線路を挟んで上流と下流です。実は条里制の頃からずっと田んぼが開かれていて、今でこそ住宅街ですけども、石田の頭首口からの水を24枚の戸板で水利を制御し、徹底的に利用して、ホテルと子ども達が遊ぶ生き物と、そして文化も800年の歴史と4,800人の住民、2,800万円の予算。これ、行政は負けますね。本当に見事

だということで、トータルなお力に1票を入れさせていただきました。

本当は、もっともっと、10票も15票もほしかったんですけども、この3票に
しぼらせていただきました。

福廣さん：ありがとうございます。一応、僕も投票したので。

アイキッズが5票ということは、僕は入れてないんです。フェアでいきたいとい
いながらも、自分の好みのところに片寄ってしまって。しょうがないと思います。

まず、僕は、迷わずに巨木と水源の郷を守る会です。去年、グランプリとってし
もうたけど、この巨木が、この栃が、桂が確実に残るという約束が出来るまで、毎
年グランプリにしてでも、地域を説得したいという思いが一番です。

それから、2つ目。去年、山内の親子とトチノキを御一緒させていただきました。
同じ県内にいながら、琵琶湖を挟んで対岸は「初めてや」って言うんですね。対岸
も初めてやのに一気に沖縄に行ってもて。(笑)これはやっぱりすごいことやと
思って。もうちょっと言いますと、ご一緒した親子のお母さんは、甲賀の保健師さ
んで。僕は伊賀で、隣同士で、伊賀名張の保健師さん仲間と勉強会を開く約束が出
来ているという極めて個人的な事情で。(笑)保健師さんは町づくりが仕事やと言
われてます。それで名張の保健師さんにそれを勉強させたいと。

3つめは、アイキッズと能登川南小学校、どちらに入れようか迷って、どちらか
に1票入れるの辛いなと思って、あえてやめて、曼珠沙華の徳山環境保全会に。
僕、曼珠沙華大好きで、片寄先生は「曼珠沙華」とおっしゃいましたが、彼岸花。
これ、おおよそ日本で200の呼び名があるそうです、各地域で。ひょっとしたら
桜以上に馴染まれている植物かもしれません。やっぱり、これはすごいやろなど。
何でも思いついた事をやるんやというのもすごいですね。ということで、僕は1票
入れさせていただきました。

事務局からの指示によりますと、これからテーブルまたは会場から、「どうして
もこれを応援しとかなあかん」、「これを言うとな、まだどうしても理解されてな
い」というようなことがありましたら、発言いただきたいと思います。御協力いた
だければ。

会場から：これはアドバイスなんですけど、先程子どもさんが、「魚を料理する時に手
がずるずるしてやりにくかった」と。あれは軍手を左手に使ったら魚は滑らないし、
やわらかいビワマスでも簡単にさばけます。(笑)

それともう1つは、曼珠沙華、彼岸花は根っこに毒をもっているんですね。だから堤防に植えると野ネズミが堤防に穴をあけたりなんかしない。また、田んぼのケアの水漏れにも役に立つという、そういういい面があります。以上2点です。

福廣さん：ありがとうございます。彼岸花、毒はあるんやけども上手にあく抜きが出来たら、飢饉の時の食べ物ですよ。栃の実もそうですね。生食、直食は引きひんけども、いざという時食べられる、すごいもんですね。

アイキッズの皆さんも、クーラーボックス開けたときに、ほんまもんの魚が出てきたら絶対1票入れてた。次回はそうしてください。

他にみなさん、どうしてもこれだけは言うのかなあかていうご意見がありましたら欲しいんですが。もしなければ、全体選考の皆さんが双方でコメントされたことで刺激されて、「やっぱり票入れ変えようかな」ってなったかもしれません。「保津川基金さんの主体性の逆転」なんて、片寄先生、えらく頷いてらっしゃいましたけど、どうしましょう。もう1回3票入れますか。会場から手があがりました。どうぞ。

会場から：すいません、瀬田川リバプテ隊ですが、B-4の保津川基金さんが1票というのは、私はどうも……。知事だけ入れられたということですけど。



実は私、3.11以降、助成金というのが全部、東日本大震災のほうに流れていってるんですね。

我々の活動にはなかなかありつけないということで大問題、今後の運営には大問題なんです。ただその辺に注目していただいて、再検討してB-4というのをさせていただけたらなと思います。この発想は今日一番の収穫でございました。ありがとうございました。よろしくお願いします。

福廣さん：僕も、おっしゃるとおり、一瞬、難しくてよく分からない。どんな仕組みになっているか分からない、ということはしっかり名刺交換をしていただいて、保津川基金のお2人来て頂いておりますので、今後しっかり教えてもらおう新しい仕組みということで御理解させてください。ここで、もう1回票を入れなおして、グランプリとなるようになるとまた……。

もうひとつは、グランプリと準グランプリを選んでいますが、あと河港協会賞と

かマザーレイク賞とかもございますので。

今の票の順序は、5票、4票、3票で、2票は2つあるので。本来グランプリと準グランプリを1つずつ選ぶということですが、5票、4票、3票の3つを選ばせていただいて。2票まで選んでしまうと5つになるということ。

5票、4票、3票の3つのチームをグランプリ、準グランプリとして推薦させていただくということで、よろしゅうございますか。

<会場 拍手>

福廣さん：会場、半分ぐらいかもしれませんが。御賛同いただけないという方がいらっしゃったら、もう1回ご発言していただくこともあります。

北井委員長：決選投票的なものはないんですか？

この3つの中から、もうちょっと吟味、検討をしても・・・

福廣さん：実行委員長がそう言うてます。(笑)

5票、4票、3票の3団体を、グランプリと準グランプリの候補に選ばせていただくということで御了解いただけますか。

<会場から拍手>

福廣さん：ありがとうございます。この中で、グランプリ、準グランプリをどうするかというところで、どうしましょう？

実行委員長、何かいい提案ありませんか。

北井委員長：そうですね。もう少し、御意見が出てうれしいかなと。もし、各テーブル選考で、もう少し詳しく聞いてらっしゃる所があったらプラスアルファで、「ここ、ちょっと抜けてたけど、ここはこうですよ」とか。

福廣さん：この5票、4票、3票の3つの団体から選ぶということで、みなさんに御了解いただきましたが、「こいつはやっぱりグランプリやで」というようなことがありましたら、御意見をいただきたい。

会場の方からはないようです。全体選考の皆さん、どうしましょう。

朴さん：例えば、1票の差は1票の差でありまして、私たち6人のうち5人がアイキ

ツズさんのところに票を入れたというのは、やはり重く感じる部分があるんじゃないかなって私は思っております。ここで、また再び、どちらがいいと言っているのは、我々の選考が間違ってるということです。(笑)これがまったくの同数で並んでいるんだったら、議論をするのもいいんですが、私たちが何でこの団体を選んだのかを説明をかねて話した時に、会場から「あなた間違ってるんじゃない」ということもなかったと思います。

やっぱり、5票、4票、3票と票に差が出ている以上、ここで何をどういう風に議論したらいいのか、むしろ逆に聞きたいのですが。(笑)

福廣さん：さすが名節やな。

朴さん：ただ、投票結果を尊重すべきじゃないかと思います。

福廣さん：わかりました。僕も生魚を入れてくれることを条件に1票で、全員一致ということで。

そうしますと、C-3のアイキッズ～エコアイディアキッズびわ湖～。

朴先生曰く、スーパーキッズですけれど、食の賑わい、文化の賑わい、地域の賑わいということで。

ここに、グランプリを選ばさせていただきたいと思います。

<会場拍手>

福廣さん：4票と3票はどうしましょう。やっぱり、準グランプリ2つやね。

<会場拍手>

福廣さん：ということで、時間も見方にして、独断で、A-1の勝部自治会とC-4の曼珠沙華の徳山環境保全会を準グランプリに選ばさせていただくということで、全体選考を終えさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

<会場拍手>

福廣さん： それでは、一気に片寄先生、朴先生、松尾先生、遊磨先生の順に全体感想みたいなこととお話しいただきたいと思います。

片寄先生に関しては、殊に忙しい中お願いをしているのですけれども、ずっと今朝からスケッチをしていただいています。それを見せてもらいながらの全体感想をいただきたいと思っています。よろしくお願いします。

片寄さん： 早業で、みなさんのええかげんなスケッチをさせていただきました。こんな小さく書いているのですが、大きくするとこんな感じです。

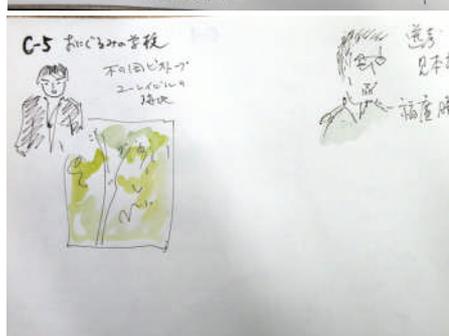
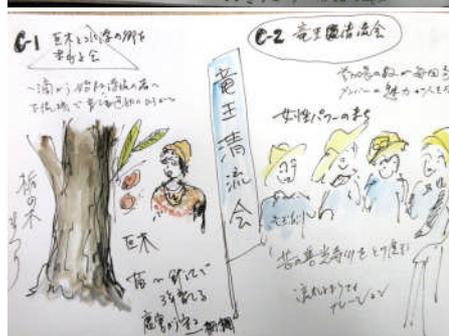
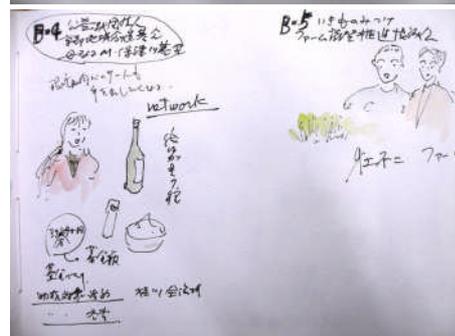
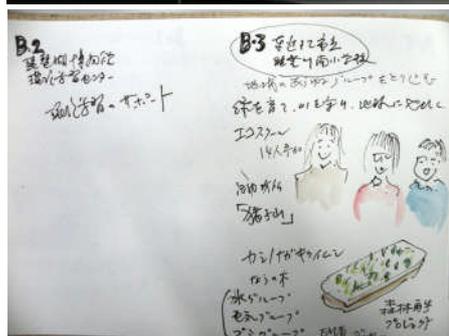
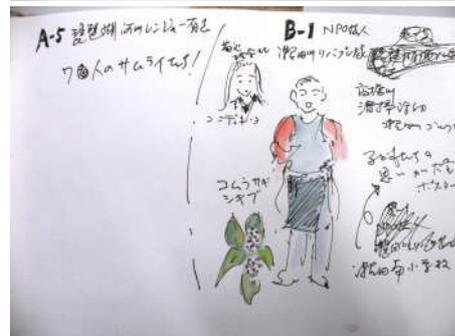
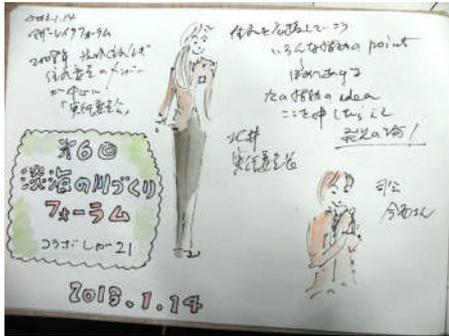


まずは実行委員長の北井さんのスタイルをすらっと。そして、司会の今西さんと女性コンビで大変すばらしい出だしでございました。

A-1 の勝部自治会は、この方もすらっとした男性と、ちょっとすらっとはしていないけれども美しい女性と2人の発表で。「履行いただいている」というあの表現が大変よかったなと。A-2 の愛知川塾。これは勉強するということで、大変学術的なことをわかりやすく、子供たちにもわかってもらう、それは水槽だと。移動水族館と名付けてやっておられましたね。これもなかなかこれまでなかった発想だと思います。A-3 の山内エコクラブ。みやびちゃんはどこ行ったのかなと思っていたら、お姉ちゃんのみやびちゃんがちゃんと全体を指導されて、子供たちがのびのびと、子供たちの声のすばらしさに感動しました。はっきりと明晰な声でばっちりでございました。昔の暮らして水洗便所がなかったときがあったのだという、ちょっと年寄りみたことを言うと、「こんなことも知らないのか」と驚きでございましたけれども。海も川も人間の手で美しくもきたなくもできるのだと、このまとめが、さらには「時には水辺を自然に染めることも」という台詞。これには参りましたね。A-4 の方はすみません。書けなかったのですが、土木事務所だからまあいいやということで。(笑) A-5 の琵琶湖河川レンジャー。7人の侍たちの表情を書きたかったのですが、これも拝見できなかったのが残念です。

B-1 のNPO 法人瀬田川リバブレ隊。このおじさん、なかなかスタイルがキマってまして、前掛けがあるのですよ。これも書いていて、「お、このおじさん前掛けやっているわ」と。子供たちの思いをポスターにして飾ってあるそうです。B-2 の琵琶湖博物館環境学習センター、環境学習をサポートしていただいています。

★片寄先生のスケッチ★



これもまあいいかと。(笑) B-3 の東近江市立能登川南小学校。これは参りましたね。緑を育て川を守る。地球にやさしくエコスクールにという。今回は 14 人が来て発表いただきましたけれども、猪子山という山があるのですね。これはイノシシがいたのでしょうね。そして、水グループ、電気グループ、ごみグループ、ちゃんと等分に分かれて研究をしておられる。これもすばらしい活動でございました。B-4 の母なる川・保津川基金。貧乏人でも基金をつくれるということがこれでわかりました。(笑) ぜひ我々も努力して基金を作りたいなと。さらに今日は持ってきておられる、ヤタロウというお酒を、魅力的な商品を開発しておられるということに本当に感動いたしました。B-5 のいきものみっけファーム滋賀推進協議会。身土不二の精神で農業にということでした。

C-1 は巨木と水源の郷を守る会。トチの実のいろんな食べ方をまた教えてほしいなと思いましたけれども。一滴からはじまる源流の森を下流の方で育てていこう。これも非常に大事な発想だったと思います。下流の方で育てて、大きくなってから上へ行きましようということですね。C-2 の竜王清流会。この方々の女性のパワーはさすが滋賀県。また、ナレーターの流れるようなご説明。(笑) これはすばらしかったですね。昔の善光寺川を取り戻そうという心意気に感動しました。C-3 のアイキッズ。これは、実はテーブル選考では選考されない。そして、敗者復活でのし上がって、ついにグランプリを獲得したという。この会ならではの、非常にええ加減な(笑)、しかし真面目な選考方法であったと思いますけれども。聞いてみるとこれはグランプリにふさわしいなということでありました。僕は、食文化の伝承、そして着替える早変わりのあの身軽さにみなさん拍手を送っていました。そして、C-4 の徳山環境保全会。この方々の曼珠沙華、彼岸花の植え込みですね。これが本当に美しいなあと、マラソンでも見られるのですよとサービス精神を含めてですね、環境整備の新しい世界を開かれたと思います。最後はオニグルミの学校、木の岡ビオトープ。幽霊ビルの跡地であったという。幽霊ビルの写真をどかーんと出していたら、もっとアピール力があつたのかなと思いますけれども、これも大変おもしろい活動であったかなと。

あと選考委員の顔もいろいろ書いたのですが、これは省略ということで。(笑) 本日の一応のおさらいをさせていただきました。どうもありがとうございました。

<会場拍手>

福廣さん：片寄先生ありがとうございました。本当にすばらしいスケッチでありました。さすがの早業で。それでは朴さんよろしく申し上げます。

朴さん：片寄先生が A-1 から C-5 までの選考団体の要約をしていただいたので、非常にわかりやすくなったなと思います。

私は感想として一つだけ申し上げたいのは、今日のキーワードとして私が考えたのが「力」ということだったのではないかなと思っております。その「力」におい

ても3つ考えさせられました。1つが地域「力」、それからもう一つが資金「力」、もう一つが人間「力」。そこで、特にこの人間力においては、またさらに3つの「力」があるのではというふうに思いまして、まず女性「力」、子供「力」、老人「力」。これが一緒になっていけば、滋賀県は日本一の、あるいは世界一のみんなで作りに上げていくような、すばらしい県として、世界に名のれるではないかなと思いました。

本当に今日はいろいろお勉強させていただきました。ありがとうございました。
〈会場拍手〉

福廣さん：ありがとうございました。松尾先生、よろしく。

松尾さん：失礼いたします。今日は15の発表をいただきました。みなさん、スパイラルに活動のレベルを上げていらっしゃるのが大変よくわかりました。得てして、同心円をくるくると回って活動をしているのが本来の姿なのですが、これをスパイラルに少しずつ上昇されていることに大変感動いたします。

そして、私も、滋賀県土木事務所のところちょっとカッときておるのですが、これを受けましてファンD、これも大変光りました。市民ファンDがどのようにしてうまく活動し、また資金を集めるのか、この辺の活動に対しても魅力を感じました。そして、私におきましては、特に今日はマザーレイク21の表彰もあるということで、マザーの他にファザーはどこにいるのだろうと（笑）、今日は淡海の川づくりフォーラムで探しにきました。みなさん答えが出ましたら教えてください。よろしくお願いします。

〈会場拍手〉

福廣さん：ありがとうございました。

遊磨さん：みなさんおっしゃったので、だんだん言うことがなくなっているのですが、みなさん本当にすばらしいお話がいっぱいあって、しかもどの活動もかなり長く続けられている。長く続けるということに大変なエネルギーがいると思います。ひょっとするとそれぞれの団体さんも今悩んでおられるのは、それぞれの団体の世代交代かもしれません。でも、いろんなキッズのところもいっぱい含まれていますのでだんだんそういうこともできるのかなと。

もう一つ、長く続けていただいているおかげで、それぞれの地域でいろんな目でそれぞれの方がよく見るようになっておられるということです。今までは「見たこともない」という方も少なからずいたと思うのですが、今はもうみなさんが目を光らせている。これでこそ環境が守っていけるのではないかなと、大変すばらしい発表ばかりだったと思います。この中から3つとか4つとかを選べという過酷なことは、これ以上させないでいただきたいと思います。ありがとうございました。

〈会場拍手〉

福廣さん：ありがとうございました。

表彰式

グランプリ 「アイキッズ ～エコアイディアキッズびわ湖～」 ★★★

賞状、グランプリ、「**子供の目が命のつながりをみつけたで賞**」。アイキッズ ～エコアイディアキッズびわ湖～様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成25年1月14日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



準グランプリ 「勝部自治会」★★



賞状、準グランプリ、「**水への親しみと地域の魅力、守り続けるのは地域ので賞**」。勝部自治会様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成25年1月14日、滋賀県知事 嘉田由紀子。

準グランプリ 「徳山環境保全会」★★

賞状、準グランプリ、「**男11人、川に親しむ地域の芽を出したで賞**」。徳山環境保全会様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成25年1月14日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



河港協会賞 「愛知川塾」★

賞状、滋賀県河港協会賞、愛知川塾様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成25年1月14日、滋賀県河港協会会長 佐野高典。(代読)



河港協会賞 「山内エコクラブ」★



賞状、滋賀県河港協会賞、山内エコクラブ様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成25年1月14日、滋賀県河港協会会長 佐野高典。(代読)

河港協会賞 「竜王清流会」★

賞状、滋賀県河港協会賞、竜王清流会様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成25年1月14日、滋賀県河港協会会長 佐野高典。(代読)



マザーレイクフォーラム賞 「琵琶湖河川レンジャー有志」★

賞状、マザーレイクフォーラム賞、琵琶湖河川レンジャー有志様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々の活動を通じてマザーレイク21計画の基本理念である「琵琶湖と人との共生」の実現に大いに貢献されたと認められましたので賞します。平成25年1月14日、マザーレイクフォーラムびわコミ会議運営委員会委員長 松沢 松治。



マザーレイクフォーラム賞 「公益財団法人 京都地域創造基金（母なる川・保津川基金）」★



賞状、マザーレイクフォーラム賞、公益財団法人 京都地域創造基金(母なる川・保津川基金)様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々の活動を通じてマザーレイク21計画の基本理念である「琵琶湖と人との共生」の実現に大いに貢献されたと認められましたので賞します。平成25年1月14日、マザーレイクフォーラムびわコミ会議運営委員会委員長 松沢 松治。

マザーレイクフォーラム賞 「巨木と水源の郷をまもる会」★

賞状、マザーレイクフォーラム賞、巨木と水源の郷をまもる会様。あなたは第6回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々の活動を通じてマザーレイク21計画の基本理念である「琵琶湖と人との共生」の実現に大いに貢献されたと認められましたので賞します。平成25年1月14日、マザーレイクフォーラムびわコミ会議運営委員会委員長 松沢 松治。



福廣総合コーディネーターの講評

今日、総合コーディネータをさせてもらって、次も僕が選んでいただけるかどうかはというのはさっき言いましたけれども、今後の発展系という希望が3つあります。

1つは、このフォーラムが新しい平成楽市楽座にならんかなと、震災後の新しい楽市楽座にならんかな、と思っています。何を売るのか。僕は「一時製品の物産市をやってほしい」としきりと言っていたのですが、ちょっと気持ち変わりました。コミュニティカを売る。コミュニティに値段がついて、そのコミュニティがブランドになる。一時製品、自然力だけでなく、コミュニティカといっしょにするといいものができるのではないかと。ということで、新しい楽市楽座にこのフォーラムがなってくれたらいいなというのが一点目。

2つ目、このフォーラムもお馴染みのかたが随分たくさん重ねて来られるようになりました。松尾さんが先ほど「スパイラル」とおっしゃいましたが、同じメンバーで同窓会をやられたら、参加者の同窓会をやられたらどうかと。スパイラルに、みなさんで「今年は〇〇をやっている」ということを情報交換をするという会になったらものすごくいいのではないかと。これの音頭取りは、琵琶湖博物館の環境学習センターで音頭取りしてもらおうと一番良いなというふうに思いました。

3つ目ですが、昔から先生が言われていたことの焼や直しみたいですけれども、各地にある現場をツアーで回る。巡回バスで回って、一回のツアーで11箇所ぐらいみて、十一面観音ツアーみたいな感じで、大津発、彦根発、なんとか発観光ツアーみたいな形で実現してくれたらと。

この3つの希望で僕の仕事を終わりにしたいと思います。お粗末でございました。



嘉田知事より



改めまして、早朝9時過ぎから、みなさんには丸一日フォーラムにご参加いただきまして、ありがとうございます。

実は、この会場は5時に撤収せよと言われていたので、私はお伝えしたいことがいっぱいあるんですけども、担当がヤキモキしていますので、2点だけお伝えしたいと思います。

まず、今回のこの第6回のフォーラムで、みなさんそれぞれの新しい「縁（えにし）」を創っていただいたと思います。グランプリをもらっていただいた方。そしてまた、それぞれにプレゼントをしていただいた方。是非、今日の「縁」をつないでいただいて、そして福廣さんがおっしゃっ

ていただいたように、それぞれお互いに活動の現場を行ったり来たりするという相互交流の場にしていただき、その交流の結果を、また来年の第7回に出していただけたらありがたいなと思います。それが1点です。

それから、2点目は、私、行政として、本当に過福な、幸せな瞬間、時間だったと思っています。多くのみなさんが、「県の金が足らんからわしらが動く」と自分から言ってくださり、そして「金はいらんけど顔だけ出せ」ということで、みなさんがフォーラムでお互いに顔を出しあう。繰り返しになりますが、実は滋賀県の508河川、2,000km、これは県が管理する河川としては全国一なんです。その分、市町村が管理する普通河川が少ないということでございます。そのような中、ここまで、住民のみなさんが参加をしていただいているということで、いつも「住民参加」といいますけれども、まさに「行政参加」。このフォーラムで一番得をしているのは県職員だろうと思います。どうですか、県職員のみなさん。

そして一番得をしている県職員の中には、河川はもちろん土木が中心なんですけれども、農林、水産、そして今回新しくマザーレイク、琵琶湖環境部の方も入っております。最初にも申し上げましたが、私は常々、行政はどうしても「HOW」という手続重視だと言っておりますが、今日は「WHY」、みなさんが最終何を目的としているのか、分かっていただけだと思います。

琵琶湖だったならば、おいしい食べ物。そして命のつながり。を特に子どもたち、あるいはそれぞれ活動しているみなさんにこの「WHY」のところ教えていただきま

した。

実は、私の今の名刺は、食いしん坊ベースなんです。「食」です。知事が最終的にこだわっているのは、このおいしい食べ物、安全な水、そして満足度の高い、住み心地のいい滋養をつくるということでございます。今日は「住民参加」、「行政参加」、それぞれがお互いに持ち合うものを持ち合って、大変至福の時間を過ごさせていただきました。

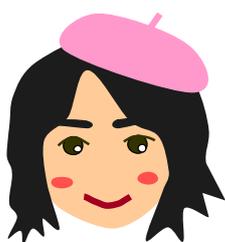
また来年、立場を超えて、隠れ行政もたくさん参加させていただき、発表もさせていただきます。一年後にみなさんとお会いできることを楽しみに、今日の御礼とさせていただきます。みなさん、どうも本当にありがとうございました。

5) 公開討論会 選考員のみなさん

テーブル A

テーブル・コーディネーター

小丸 和恵（こまる かずえ）さん／NPO法人子どもと川とまちのフォーラム 理事



大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。昨年夏、びわ湖の近くに越してきた。

『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との思いから、ライフワークとしての活動を続けて、十数年。

活動のフィールドを川から森に広げ、「あるもん」を利用したモノづくりと流通をめざして「arumonde」事業の準備も進めている。

選考員

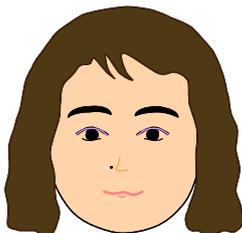
金尾 滋史（かなお しげふみ）さん／琵琶湖博物館 学芸員

1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。



小坂 育子（こさか いくこ）さん／子ども流域文化研究所 代表



三重県生まれ。水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。

三和 伸彦（みわ のぶひこ）さん／琵琶湖政策課 参事

1963年滋賀県長浜市生まれ。87年化学の技術職員として滋賀県に入庁後、環境政策課やエコライフ推進課など、一貫して環境行政を担当。

地元では湖北のタウン誌「長浜み～な」のボランティアスタッフとして、ふるさとの再発見をライフワークに、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じられる心のあり方を模索中。



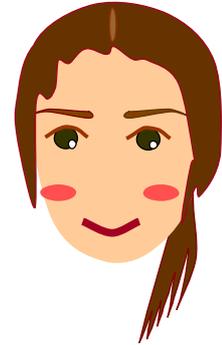
テーブル B

テーブル・コーディネーター

菊池 玲奈（きくち れいな）さん／結・社会デザイン事務所

2002年10月から約2年、霞ヶ浦の環境保全などに取り組むNPO法人アサザ基金に勤務。2004年10月から約4年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。

現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまなプロジェクトのコーディネートや講演などを中心に活動中。



選考員

青田 朋恵（あおた ともえ）さん／農村振興課 にぎわう農村推進室 副参事



仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いいにおいのする方向へは猪突猛進していきます。

野崎 信宏（のさき のぶひろ）さん／流域政策局 河川・港湾室長

1961年滋賀県大津市生まれ。84年土木技術職として滋賀県に入庁。

以前は都市計画行政に携わることが多かったが、98年以降は河川行政を中心に担当。若い頃は、カヌーで各地の川に親しんでいたが、最近は半分仕事、半分遊びで川歩き、山歩き。2010年には大津市内の一級河川をほぼ踏破。



村上 悟（むらかみ さとる）さん／NPO 碧い琵琶湖 代表理事



旧余呉町生まれ。幼少のころから湖北地域をフィールドに魚や水鳥の研究や水辺環境の保全活動に携わる。2009年7月から現職に就き、地域の自然の営みと調和した「暮らし」を、力を合わせて形にしていく事業・運動に取り組む。最近ではヨシを壁面に使った東屋づくりをコーディネートした。

テーブル C

テーブル・コーディネーター

さとう ひさえさん／天若湖アートプロジェクト 2011 実行委員長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト／あかりがたなく記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。



選考員

佐藤 祐一（さとう ゆういち）さん／琵琶湖環境科学研究センター 研究員



専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008年から3年間は、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描くプロジェクトの事務局を担当。その結果はマザーレイク21計画の将来像として取り入れられた。

杉本 良作（すぎもと りょうさく）さん／砂防広報センター 技師長

専門は防災（河川、砂防）で、県内の砂防ボランティアと防災エキスパートに参加しながら、砂防広報センター（NPO）でアドバイザーとして活動。

信楽と大津と東京を往復しつつ、琵琶湖（大戸川も含む）を眺めながら、湖辺と川岸と山林を歩いている。数年前には防災で発表者としても参加している。そのときの経験から短時間での発表の難しさを身にしみて知っている。



山口 美知子（やまぐち みちこ）／滋賀地方自治研究センター 理事



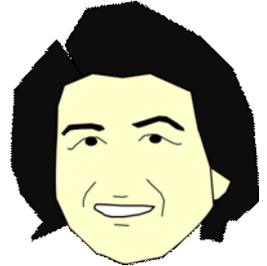
滋賀県長浜市（高月町）生まれ。林業技師として滋賀県入庁後、2012年3月から東近江市職員（企画部緑の分権改革課）となる。仕事以外では、持続可能な地域モデルを検討する「滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト」、琵琶湖の森を元気にする活動をしている「kikito」、市民活動を支える中間支援組織「NPO法人まちづくりネット東近江」等に参加している

全体討論

朴 恵淑（ぱく けいしゅく）さん／三重大学理事・副学長（環境・国際・男女共同参画担当）

1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「第6回淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。



松尾 則長（まつお のりなが）さん / 犬上川を豊かにする会



2001年の川づくり会議の地域委員をきっかけに流域の深みに溺れてしまい、その流れから立ち上がった「犬上川を豊かにする会」に参加。

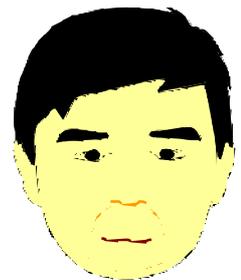
設立まもない同会が2003年第3回世界水フォーラムin滋賀の東京プレ・水フォーラムにパネラーとして参加し、力不足を痛感し今日に至っています。

流域自治会、学生達とともに協働をはかり、犬上川の管理をサポートする会です。

遊磨 正秀（ゆうま まさひで）さん／龍谷大学理工学部教授

1954年3月、山口県生まれ。京都大学理学部卒業、京都大学大学院理学研究科修士課程・博士後期課程修了。琵琶湖博物館準備室、京都大学生態学研究センター助教授を経て、龍谷大学理工学部教授。

ホテルの舞う水辺について想いをめぐらし、魚の喜怒哀楽を水中で見つめ、川のあり方も生き物に問う。社会貢献の一環として国内外でスケートの審判に勤める。



総合コーディネーター

福廣 勝介（ふくひろ しょうすけ）さん／NPO法人 近畿水の塾 理事長

京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団（住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構）に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計を担当。現在は（財）住宅管理協会関西支部で団地管理に従事。住民活動では、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。自然復元系や協働の仕事に関心がある。昭和24年、三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、山・川・人との付き合い。団地故郷作り。脱近代。



コメンテーター

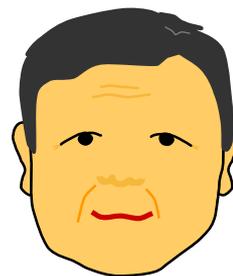
嘉田 由紀子（かた ゆきこ）さん／滋賀県 知事



埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程（農村社会学）修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニシンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。

片寄 俊秀（かたよせ としひで）さん／大阪人間科学大学 教授

水辺と下町の同時的再生こそが、人類の明日に、ほのかなく希望をもたらすと信じ行動する「川じじ」。淀川河川レンジャー選考委員長。環境芸術家。まちづくり道場主。技術士・工学博士・一級建築士。著書『ブワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線（共著）』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』など。



6) 実行委員会

実行委員長

北井 香（きたい かおり）／NPO法人木野環境



奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は京都のNPO法人 木野環境に所属。「持続可能な社会をつくる」という理念に沿えば何でもテーマになる団体で、ここ数年は、滋賀の農山村の情報発信業務などに関わり、県内各地へ。2009年に流域治水検討委員会（住民会議）を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

実行委員会



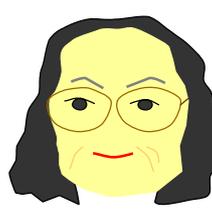
大橋正光さん



杉本良作さん



松尾則長さん



中井正子さん



柴田善秀さん



石津文雄さん



齒黒恵子さん



成宮純一さん



中村誠伺さん



多々納裕一さん

※ 実行委員会は、復活選考の選考に加わっています。

7) 参加団体の活動紹介

団体名：勝部自治会【A-1】
活動概要：地域の防災、親水、伝統を繋ぐ活動
川や水辺の名称：勝部自治会内 たちばな川(楓三道)を含む9河川およびその支流となる水路、かつべほたる北の道(今宿川)、かつべほたる南の道(中水川) (守山市勝部1丁目～勝部6丁目および勝部町)
発表内容： 勝部は、JR守山駅前の便利な所に位置するにもかかわらず、まち中を川や水路が縦横に走り、水辺の空間が、網の目のように巡っています。また、町内には、守山学区の4つの教育機関も集まっており、川や川沿いの田畑は、生活科の学習、サツマイモ栽培、菜種作り、米作りといった体験学習の場にもなっています。そして、毎年1月に行われている勝部の火まつりは、これらの川や水路と共に、800年の伝統を今に伝えています。 町内の川や水路は、田畑を潤すことはもちろんのこと、防災、親水、伝統を繋ぐといった役割も担って、今日(こんにち)に至っています。 当自治会が、この地域らしさを生かして{防災、親水、伝統を繋ぐ}ために取り組んでいること、これからもその努力を続けたいと考えていること等をお話したいと思います。



団体名：愛知川塾【A-2】
活動概要：東近江市の代表河川である愛知川を、市民のみなさんがもっと身近に思ってもらいたい、皆の思い出の場所になることを願って活動しています。
川や水辺の名称：愛知川(東近江市御河辺橋付近)
発表内容： 愛知川は東近江市を代表する河川なのに人のいない川になっています。子どもの時の思い出は、野や川で遊んだときのことが一番だ。そこで、愛知川が、再び皆の思い出の場所になることを願って活動しています。 愛知川塾は、次のような活動を行っています。 ① 愛知川についての勉強会 ② 愛知川の自然についてのPR活動 JR駅、小学校、福祉施設への「愛知川水族館」の巡回展示 ③ 愛知川のめぐみのPR活動 市内のイベントにおいて、愛知川で獲れた小鮎の天ぷらの試食・販売 ④ 愛知川の景観を守る活動 河川内の樹木の伐採、景観保持と災害防止 ⑤ 愛知川の清流を復活、守る活動 インターネットブログ「愛知川だあーいすき」で2008年より掲載中



団体名：山内エコクラブ【A-3】

活動概要：調査、自然体験、交流、川文化など

川や水辺の名称：野洲川（甲賀市土山町黒川）

発表内容：

滋賀県土山町山内地区と沖縄県糸満市米須地区及び滋賀県永源寺町山上地区の子どもたちが、今夏、野洲川源流で環境体験学習を行い、自然保護と里山文化について交流しました。

さらに山内地区の子どもたちが米須地区に出向き、地域文化を活かした地域まるごと博物館の取り組みに触れました。

川がある所とない所の比較、海がある所とない所の比較を通して、水と暮らし、川と生き物などについて考えたことを報告します。



団体名：滋賀県 湖東土木事務所【A-4】

活動概要：河川管理者として、河川の工事・維持管理を実施しています。

川や水辺の名称：犬上川（彦根市八坂町 犬上川右岸）

発表内容：

湖東土木事務所管内には犬上川という大きな川があります。犬上川の河口では、特定植物群落のタブノキや危急種であるハリヨやタコノアシ、希少種のビワマスが生息し自然豊かな河川環境を形成しています。

犬上川の河口では、台風などによりたびたび大きな水害が発生していたため、河川の改修工事を進めています。この豊かな自然環境をすこしでも残せるよう県立大学と相談し、タブノキを河川の中に中之島という形で残すなどの取り組みをしてきました。

このように改修工事が進められる中、一時予算の減少などで事業が中断され、平成 24 年 11 月から再開した工事において保護すべきエリアのタブノキを伐採してしまうという重大な失敗を犯してしまいました。

今後このようなことを起こさないために、起きた原因と対応について話したいと思っております。



団体名：琵琶湖河川レンジャー有志【A-5】

活動概要：住民と住民ならびに住民と行政の連携・協働のコーディネーター(つなぎ役)として活動

川や水辺の名称：琵琶湖とその周辺河川

発表内容：

琵琶湖河川レンジャーは、現在7名が任命され活動しています(活動休止中1名を含む)。琵琶湖およびその周辺で、川に関する地域の方々の思いや、事業を行う行政の声を引き出し、それらをつなぐ調整役をしています。活動を行っている各レンジャーの活動テーマと現在の活動内容です。

■佐々木レンジャー：川辺に交流の場をつくる

●旧洗濯の利活用(思い出づくり)と交流の場づくりをしていきます。

■平山レンジャー：川への想いを共有し、課題解決に向けて

●瀬田川一斉清掃の感想や意見をまとめ、ウォーターステーション琵琶で公表していきます。

■伊東レンジャー：住民と行政の連携による琵琶湖の水草対策

●琵琶湖の水草対策について、住民、行政がともに取り組んでいけるよう、住民の方への周知活動を行っています。

■安居レンジャー：暮らしと川のつながり再発見

●愛知川でさまざまな活動に参加しながら、川と流域住民の関わりについて調査し、まとめていきます。

■原田レンジャー：子育て中の保護者と行政・地域住民との交流の場づくり

●子育て世代の河川への関心を高める「きっかけ」の場『アクアちゃん広場』を開催しています。

■池本レンジャー：川への想いの情報紙発行

●川や川辺の暮らし、施設、活動、仕事など、川にまつわる風景を元に情報紙を発行し、川辺と人をつなぎます。



団体名：NPO法人 瀬田川リバブレ隊【B-1】

活動概要：地域に流れる小さい河川や瀬田川における維持管理活動を実施しています。

川や水辺の名称：高橋川および瀬田川(大津市神領町)

発表内容：

地域に流れる小さい河川の清掃(高橋川)および瀬田川バイパス高架下付近、瀬田川洗堰100周年記念事業で河川敷に植え付けられたコムラサキシキブ周辺の維持管理活動を毎月10日・25日に実施しています。

1年間、夏の暑い日、極寒の冬の日、遠方より又地元の人達に参加いただいた熱意を今年も伝えに参りました。今年も大きな変化はありませんが、小さな活動、このような活動の輪が広がる事を特に期待して、今年も参りました。



団体名：琵琶湖博物館 環境学習センター【B-2】

活動概要：地域、学校、行政、企業、個人から団体まで、みんなの環境学習をサポートしています。

川や水辺の名称：県内全域

発表内容：

琵琶湖博物館環境学習センターでは、皆さんからの環境学習のご相談に答えています。例えば・・・

○川で生きもの探しをしたい！

・・・お魚博士や川保全活動団体、水生生物専門家などを紹介します。

○川で環境学習したい！

・・・自然の状況や対象とする人（幼児から大人まで）に合わせて、環境学習のプログラムや運営方法を企画します。

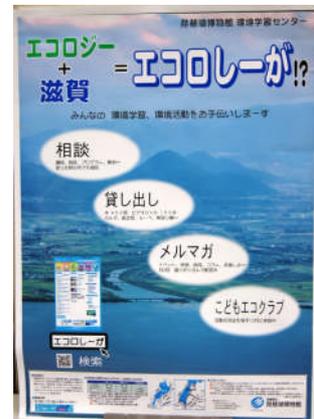
○琵琶湖や川、環境問題などの本やビデオがみたい！

・・・全部で450本以上のタイトルからお選びいただけます。

○子ども活動を発表したい！

・・・こどもエコクラブにご登録ください。毎年12月に琵琶湖博物館で活動発表会を行っています。

<http://www.ecoloshiga.jp> にアクセスください。
講師や本、ビデオ、学習施設の情報が満載です。



団体名：東近江市立 能登川南小学校【B-3】

活動概要：水質・生物調査

川や水辺の名称：山路川（東近江市猪子町～山路町）

発表内容：

東近江市立能登川南小学校が取り組んでいるエコ活動についての発表です。

里山である猪子山を活動場所として全校で取り組んでいる「猪子山活動」、八日市南高校のお兄さんお姉さんといっしょに活動する「森林再生」、校区を流れる山路川を活動場所として5年生が取り組んでいる「山路川博物館」、エコスクール委員会の水・電気・ごみグループの取り組み、洗剤を使わず水環境に配慮した「EM菌を使ったプール掃除」、PTAと連携した「緑のカーテン事業」について発表をします。



団体名：公益財団法人 京都地域創造基金（母なる川・保津川基金）【B-4】

活動概要：琵琶湖淀川水系である保津川流域の課題解決に取り組む市民活動団体のネットワークづくりと活動資金支援のためのファンド運用

川や水辺の名称：保津川・上桂川・大堰川（亀岡市 京都市 乙訓郡大山崎町）

発表内容：

琵琶湖淀川水系である保津川流域の課題解決に取り組む市民活動を支援するために、17 団体が設置申請をして2010 年4 月に立ち上げた「母なる川・保津川基金」。市民や企業から寄付を募り、助成金として各市民活動団体に届けています。全国的にも珍しいテーマ・地域課題に沿った市民ファンドです。

多くの方が基金に関われるように、寄付付き商品の開発や募金箱の設置に特に注力。日本酒（佐々木酒造）や保津町の特産品、保津川の昔を知れる冊子や絵はがき、書籍などバラエティに富んだ商品を展開しています。3 月にはチャリティマラソンを実施する予定です。

2012 年6 月、有識者による選考会を行い、4つの市民活動団体に寄付金を助成しました。海ごみ問題を川から考えるサミット、嵐山周辺の川の清掃、川の清掃に取り組む複数の団体の協働を進める試験的清掃活動、親子で川に親しむカヤック事業を支えました。

現在、全事業が終了し、助成先事業報告会とともに保津川流域で活動する市民団体のネットワークづくりの場の開催準備に取り組んでいます。また、第2回助成に向けた寄付集めも進めています。



団体名：いきものみつけファーム滋賀推進協議会【B-5】

活動概要：身土不二、地産地消に立脚した農産物の生産と安全安心な食と生命について考える環境学習を展開しています。

川や水辺の名称：県内河川や水路

発表内容：

河川や琵琶湖の水質保全には、濁水を流さないことに加え、田畑で有機物が循環することが重要です。そこで、自然循環型農法により「土の力」の再生を試み、田畑や水路、河川に多様な生物が棲息できる環境をとり戻すために「いきものみつけファーム滋賀」を設立しました。身土不二、地産地消に立脚した農産物の生産と安全安心な食と生命について考える環境学習を展開し、目の前の川や水路を豊かな水辺へと再生する思いとプロセスについて報告します。



団体名：巨木と水源の郷をまもる会【C-1】

活動概要：巨木調査、トチノキ見学会、トチノキ発表会、栃の木祭り、びわ湖源流の森事業、他団体との交流、展示会、講演、執筆、ガイド、巨樹・巨木の森整備事業への協力等

川や水辺の名称：安曇川支流の北川、針畑川、安曇川本流の枝谷（高島市朽木一帯）

発表内容：

びわ湖の源流域、旧朽木村で数年前から、トチノキ巨木伐採が始まりました。伐採された樹はすべて数百年を経た樹木で、これからもまだまだ、源流を守ってくれるはずの巨木が、銘木業者により、抜き伐りされ、大型ヘリコプターで運び出されました。

2010年10月、びわ湖源流の崩壊を危惧した人々が、地域の人たちと共に「巨木と水源の郷をまもる会」を立ち上げました。現在は、係争中のため一旦伐採は止まっていますが、いつまたトチノキは伐り始められるかわかりません。ただ、この問題は自然保護だけにかかわる問題ではなく、背景に潜む、様々な社会問題が複雑に絡み合い生じた問題です。そこで、私たちは、源流の森の保全と源流の郷の生活や、森林をめぐる生活文化の保全に目を向けながら活動をしています。また、源流域の人々も、下流域の人々も、「一滴から始まる源流の森へ」を合い言葉に、互いに源流に思いをはせ続けることが、源流の森をまもる原動力になるのではと、活動を続けています。

源流の森の映像詩“トチノキの叫び”を見ていただきながら、私達の保全活動をお聞き下さい。



団体名：竜王清流会【C-2】

活動概要：河川環境美化作戦 ～子どもたちにきれいな川を～

川や水辺の名称：善光寺川（蒲生郡竜王町）

発表内容：

竜王 IC から国道 8 号へ伸びる全長 4km、一級河川で砂防河川である「善光寺川」は、かつて「七里河原」と呼ばれ、白砂がまぶしい河川敷でした。砂防事業で一時は整備されたもののその後放置されジャングルのような状態となってしまいました。

そこで、何とか子どもたちが寄りつける以前の姿に戻そうと、有志によるボランティア団体を立ち上げ、雑草木の伐採やゴミ拾いなど取り組むこととしました。

当初は、並走する国道 477 号の通行に支障を来すほど大きく成長した雑木の伐採から始め、切り取った草木の集積、チップ化を行いました。

近年は、草との闘いが続いており、春と秋にそれぞれ 2 日ずつ「河川環境美化作戦」として、河床・法面などの草刈り作業を行っています。

毎回 100 名を超えるボランティアの方々にご参加いただいておりますが、参加者の固定化が見られ、ボランティアの広がりが課題となっています。



団体名：アイキッズ ～エコアイデアキッズびわ湖～【C-3】

活動概要：人と人とのつながりを大切に琵琶湖の魚を使った伝統食づくりを通して、ふるさとへの愛着を深める。

川や水辺の名称：琵琶湖・狼川（草津市野路東）

発表内容：

アイキッズは、草津市のパナソニック社を拠点に狼川やびわ湖で活動することもエコクラブです。

滋賀の伝統食である「なれずし」、「湖魚の佃煮」、「アメノイオご飯」づくりにチャレンジしました。なれずしづくりでは、漁師さんや農家さんを訪れ、お米やお魚を分けてもらい、郷土料理の研究者さんに作り方を教わりました。様々な方と出会い、ふるさとや食に対する思いを聞きました。滋賀の人々は、昔からびわ湖の恵みをいただきながら水辺と共生してきたことに気づき、ふるさとやびわ湖に対する愛着を深めることができました。発表では、わたしたちがチャレンジした「なれずし」づくりについて紹介します。



団体名：徳山環境保全会【C-4】

活動概要：堤防法面に彼岸花を植栽することを通して景観形成と併せて村作りを図る。

川や水辺の名称：草野川（長浜市徳山町付近）

発表内容：

草野川は伊勢湾台風で当集落の堤防が決壊し多くの田が流出した。その後災害助成事業で復旧工事が行われ、大改修が行われた。近年ではそういった記憶も薄れ、日頃川との関わりも疎遠になっている。

ところが堤防が通学道路に指定され、ウォーキングを楽しむ人が多くなったことから堤防に花を植えようと案が持ち上がった。検討の結果、昔ならお彼岸になると当たり前のように咲いていた彼岸花が、水田の圃場整備等でめっきりその姿を消してしまったことに気づき、もう一度彼岸花を復活させようと過去6年間彼岸花の植栽に取り組んできました。その経緯と1年を通じた取り組みの様子を発表します。

「具体的な発表事項」

- 「戸惑いと大きな不安の中でスタートした」その時の様子
- 取り組みが区民のみんなのものとなるために取り組んだ工夫と手立て
- 1年間の具体的な取り組みの様子
- 「6年経って彼岸花が咲き誇るようになった」その様子
- 現在の課題



団体名：おにぐるみの学校【C-5】

活動概要：木の岡ビオトープの貴重な自然環境を保全し、環境学習等のフィールドとして適正な利活用を図る。

川や水辺の名称：木の岡ビオトープ（大津市木の岡町）

発表内容：

おにぐるみの学校は、木の岡ビオトープの貴重で豊かな自然を保全し、環境学習や体験学習などのフィールドとしての適正な利活用を図るために活動している。

これまでの継続した活動により、下阪本小学校の校外学習の一環として、2年生の環境学習をおにぐるみの学校にお願いしたいとの申し出があった。

その内容は、おにぐるみの学校に一任されたことから、子どもたちに木の岡ビオトープの存在を知ってもらい、体験してもらうことを目的に、生き物観察やネイチャーゲームを実施し、その講師等をおにぐるみの学校の運営委員（自治会の住民、専門家、近隣企業など）が担っている。これは、運営委員のモチベーションの維持にもつながっている。



淡海の川づくりフォーラムに関するお問い合わせ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局

(滋賀県土木交通部流域治水政策室内) 担当：辻・西山

電話：077-528-4291 FAX：077-528-4904

電子メール：forum@shiga-rivers.com